

講義概要

令和7年度（2025年度）入学 75期生

大阪行岡医療専門学校長柄校

鍼灸科

目 次

学科目と単位（時間数）の基準	1	はりきゅう理論Ⅰ	42
学年別配当科目	3	東洋医学概論Ⅰ	43
心理学Ⅰ	4	東洋医学概論Ⅱ	44
心理学Ⅱ	5	経絡経穴概論Ⅰ	45
社会学Ⅰ	6	経絡経穴概論Ⅱ	46
社会学Ⅱ	7	あん摩マッサージ指圧理論Ⅱ	47
生化学	8	はりきゅう理論Ⅱ	48
保健体育	9	東洋医学概論Ⅲ	49
外国語Ⅰ	10	東洋医学概論Ⅳ	50
外国語Ⅱ	11	経絡経穴学	51
解剖学Ⅰ	12	東洋医学臨床論Ⅰ	52
解剖学Ⅱ	13	東洋医学臨床論Ⅱ	53
解剖学Ⅲ	14	東洋医学臨床論Ⅲ	54
解剖学Ⅳ	15	東洋医学臨床論Ⅳ	55
解剖生理学Ⅰ	16	病態生理学	56
解剖生理学Ⅱ	17	あはき適応	57
解剖生理学Ⅲ	18	生体観察	58
解剖生理学Ⅳ	19	社会あはき学	59
解剖生理学Ⅴ	20	あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ	60
解剖生理学Ⅵ	21	あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ	61
解剖生理学Ⅶ	22	あん摩マッサージ指圧実技Ⅲ	62
運動学	23	はりきゅう実技Ⅰ	63
病理学概論Ⅰ	24	はりきゅう実技Ⅱ	64
病理学概論Ⅱ	25	はりきゅう実技Ⅲ	65
臨床医学総論Ⅰ	26	臨床実習前施術実技	66
臨床医学総論Ⅱ	27	臨床体験実習	67
臨床医学総論Ⅲ	28	臨床実習	68
臨床医学各論Ⅰ	29	臨床総合実習	69
臨床医学各論Ⅱ	30	治療学Ⅰ	70
臨床医学各論Ⅲ	31	治療学Ⅱ	71
臨床医学各論Ⅳ	32	治療学Ⅲ	72
臨床医学各論Ⅴ	33	治療学Ⅳ	73
衛生学・公衆衛生学Ⅰ	34	学術研究Ⅰ	74
衛生学・公衆衛生学Ⅱ	35	学術研究Ⅱ	75
リハビリテーション医学Ⅰ	36	総合演習Ⅰ	76
リハビリテーション医学Ⅱ	37	総合演習Ⅱ	77
医療概論	38	総合演習Ⅲ	78
関係法規	39	総合演習Ⅳ	79
社会保障制度と職業倫理	40	総合演習Ⅳ	79
あん摩マッサージ指圧理論Ⅰ	41		

学科目と単位（時間数）の基準

鍼灸科

	教育内容	授業科目	法定 単位	1 学年		2 学年		3 学年		計	
				単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考 の基盤 人間と生活	心理学Ⅰ	14	2	30					2	30
		心理学Ⅱ ※1		2	30					2	30
		社会学Ⅰ		2	30					2	30
		社会学Ⅱ		2	30					2	30
		生化学		2	30					2	30
		保健体育		2	30					2	30
		外国語Ⅰ		1	30					1	30
		外国語Ⅱ		1	30					1	30
	小 計		14	14	240					14	240
専門基礎分野	人体の構造 と機能	解剖学Ⅰ	12	1	30					1	30
		解剖学Ⅱ		1	30					1	30
		解剖学Ⅲ		1	30					1	30
		解剖学Ⅳ		1	30					1	30
		解剖生理学Ⅰ		1	30					1	30
		解剖生理学Ⅱ		1	30					1	30
		解剖生理学Ⅲ		1	30					1	30
		解剖生理学Ⅳ		1	30					1	30
		解剖生理学Ⅴ		1	30					1	30
		解剖生理学Ⅵ		1	30					1	30
		解剖生理学Ⅶ						1	30	1	30
		運動学				1	30			1	30
	疾病の成り 立ちとその 予防及び 回復の促進	病理学概論Ⅰ	12			1	30			1	30
		病理学概論Ⅱ				1	30			1	30
		臨床医学総論Ⅰ				1	30			1	30
		臨床医学総論Ⅱ				1	30			1	30
		臨床医学総論Ⅲ				1	15			1	15
		臨床医学各論Ⅰ				1	30			1	30
		臨床医学各論Ⅱ				1	30			1	30
		臨床医学各論Ⅲ				1	30			1	30
		臨床医学各論Ⅳ				1	30			1	30
		臨床医学各論Ⅴ				1	15			1	15
		衛生学・公衆衛生学Ⅰ				1	30			1	30
		衛生学・公衆衛生学Ⅱ						1	30	1	30
		リハビリテーション医学Ⅰ				1	30			1	30
		リハビリテーション医学Ⅱ						1	30	1	30
	保健医療福 祉とあん摩マツ サージ指圧、は り、きゅうの概念	医療概論	3	1	15					1	15
		関係法規						1	15	1	15
		社会保障制度と職業倫理						1	15	1	15
	小 計		27	11	315	13	360	5	120	29	795

	教育内容	授業科目	法定 単位	1 学年		2 学年		3 学年		計	
				単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
専門分野	基礎あん摩 マッサージ指圧学 基礎はり学 基礎きゅう学	あん摩マッサージ指圧理論Ⅰ	9	2	30					2	30
		はりきゅう理論Ⅰ		2	30					2	30
		東洋医学概論Ⅰ		2	30					2	30
		東洋医学概論Ⅱ		2	30					2	30
		経絡経穴概論Ⅰ		2	30					2	30
		経絡経穴概論Ⅱ		2	30					2	30
	臨床あん摩 マッサージ指圧学 臨床はり学 臨床きゅう学	あん摩マッサージ指圧理論Ⅱ	15					2	30	2	30
		はりきゅう理論Ⅱ						2	30	2	30
		東洋医学概論Ⅲ				2	30			2	30
		東洋医学概論Ⅳ				2	30			2	30
		経絡経穴学				2	30			2	30
		東洋医学臨床論Ⅰ				2	30			2	30
		東洋医学臨床論Ⅱ				2	30			2	30
		東洋医学臨床論Ⅲ						2	30	2	30
		東洋医学臨床論Ⅳ						2	30	2	30
		病態生理学				1	30			1	30
		あはき適応						1	30	1	30
		生体観察				1	30			1	30
	社会あん摩マ ッサージ指圧学 社会はり学 社会きゅう学	社会あはき学	2					2	30	2	30
	実 習	あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ	19	4	120					4	120
		あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ				4	120			4	120
		あん摩マッサージ指圧実技Ⅲ						4	120	4	120
		はりきゅう実技Ⅰ		4	120					4	120
		はりきゅう実技Ⅱ				4	120			4	120
		はりきゅう実技Ⅲ						5	150	5	150
		臨床実習前施術実技				1	30			1	30
	臨床実習	臨床体験実習	4			1	45			1	45
		臨床実習						2	90	2	90
		臨床総合実習						1	45	1	45
	総合領域	治療学Ⅰ ※2	10			2	30			2	30
		治療学Ⅱ				2	30			2	30
		治療学Ⅲ						2	30	2	30
		治療学Ⅳ						2	30	2	30
		学術研究Ⅰ				2	30			2	30
		学術研究Ⅱ						2	30	2	30
	総合演習	総合演習Ⅰ	-	2	40					2	40
		総合演習Ⅱ				1	30			1	30
		総合演習Ⅲ						3	90	3	90
		総合演習Ⅳ						1	30	1	30
	小	計	59	22	460	29	645	33	795	84	1900
	合	計	100	47	1015	42	1005	38	915	127	2935

※1 コミュニケーションを含む ※2 医学史を含む

学年別配当科目

	《1 学年》	《2 学年》	《3 学年》
基礎分野	心理学Ⅰ		
	心理学Ⅱ		
	社会学Ⅰ		
	社会学Ⅱ		
	生化学		
	保健体育		
	外国語Ⅰ		
	外国語Ⅱ		
専門基礎分野	解剖学Ⅰ	運動学	解剖生理学Ⅶ
	解剖学Ⅱ	病理学概論Ⅰ	衛生学・公衆衛生学Ⅱ
	解剖学Ⅲ	病理学概論Ⅱ	リハビリテーション医学Ⅱ
	解剖学Ⅳ	臨床医学総論Ⅰ	関係法規
	解剖生理学Ⅰ	臨床医学総論Ⅱ	社会保障制度と職業倫理
	解剖生理学Ⅱ	臨床医学総論Ⅲ	
	解剖生理学Ⅲ	臨床医学各論Ⅰ	
	解剖生理学Ⅳ	臨床医学各論Ⅱ	
	解剖生理学Ⅴ	臨床医学各論Ⅲ	
	解剖生理学Ⅵ	臨床医学各論Ⅳ	
	医療概論	臨床医学各論Ⅴ	
		衛生学・公衆衛生学Ⅰ	
		リハビリテーション医学Ⅰ	
専門分野	あん摩マッサージ指圧理論Ⅰ	東洋医学概論Ⅲ	あん摩マッサージ指圧理論Ⅱ
	はりきゅう理論Ⅰ	東洋医学概論Ⅳ	はりきゅう理論Ⅱ
	東洋医学概論Ⅰ	経絡経穴学	東洋医学臨床論Ⅲ
	東洋医学概論Ⅱ	東洋医学臨床論Ⅰ	東洋医学臨床論Ⅳ
	経絡経穴概論Ⅰ	東洋医学臨床論Ⅱ	あはき適応
	経絡経穴概論Ⅱ	病態生理学	社会あはき学
	あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ	生体観察	あん摩マッサージ指圧実技Ⅲ
	はりきゅう実技Ⅰ	あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ	はりきゅう実技Ⅲ
	総合演習Ⅰ	はりきゅう実技Ⅱ	臨床実習
		臨床実習前施術実技	臨床総合実習
		臨床体験実習	治療学Ⅲ
		治療学Ⅰ	治療学Ⅳ
		治療学Ⅱ	学術研究Ⅱ
		学術研究Ⅰ	総合演習Ⅲ
		総合演習Ⅱ	総合演習Ⅳ

心理学 I

科目名	心理学 I	講師名	岩下 美穂
実施時期	第 1 学年	講義数	15 回
単位数	2 単位	時間数	30 時間
目的・目標 医療人としてコミュニケーションは具体的な治療とともに重要である。この講義では心理学に対する基本的な知識を学び、コミュニケーションについての理解と方法を学ぶ。			
講義内容			
1. 心理学とは 環境 援助と指導 2. 対人援助とコミュニケーション コミュニケーションとは 「聴く」ことの重要性 3. 「聴く」ための具体的スキル1 受容 共感 質問 4. 「聴く」ための具体的スキル2 反射 非言語コミュニケーション 5. 自分の思いを伝えるスキル アサーション 行動を変えるよう依頼する場合 6. 心と脳 脳の機能区分 情動と脳 大脳半球の非対称性 7. 脳損傷と心 失語・失認・失行 半側空間無視 記憶障害 8. 記憶 記憶のプロセス 記憶の種類 忘却の理論 9. 記憶と注意 注意の機能 記憶方略 10. 認知のコントロール機能 メタ認知とスキーマ 11. 知覚 知覚の成立条件（内的条件・外的条件） 図と地の分化 12. 知覚 知覚の恒常性 奥行き知覚 運動知覚 時間の知覚 13. 動機付け 動機付け motivation 動機付けの種類 学習性無力感 14. 動機付け 自己効力感 価値と動機付け 達成目標理論 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考			
教科書・参考書			

心理学Ⅱ

科目名	心理学Ⅱ	講師名	高井 範子
実施時期	第1学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 心理学はこころの学問であるが、心理学を学ぶということは、人間そのものについての多角的理解を深めることでもある。人間の心と身体がいかに密接に関連しているかを含めて、自己理解や他者（患者）理解、洞察力を深め、さまざまな心理的・身体的状況を生きておられる患者様に対してより良い治療を行なうために、心理学の基礎知識を身につけることを目的とする。			
講義内容 1. オリエンテーション カウンセリングの基本 2. 動機付け・欲求不満・コンフリクト キャリア形成 社会人基礎力 3. パーソナリティⅠ（特性論 類型論） 性格検査（TEGUMによる自己理解Ⅰ） 4. パーソナリティⅡ 性格検査（YGテストによる自己理解Ⅱ） 5. 知能と創造性 EQ（情動の知性） 6. ストレスと健康 パーソナリティと健康 7. 医療現場においてよりよい人間関係を構築するための自己理解 ワーク：対話的關係の自己点検 8. 親密な人間関係（対人魅力） －人間関係に負の影響を及ぼす対人認知要因も含めて－ 9. 人間関係の悩みとその克服 医療現場における対人苦手意識の克服に向けて 10. フロイトの精神分析学Ⅰ 11. フロイトの精神分析学Ⅱ 自我の防衛体制 12. 医療面接1：医療面接とは 医療面接2：医療面接の実際 13. 医療面接（DVD視聴） 医療面接ロールプレイング 14. 認知行動療法、論理療法 まとめ 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考			
教科書・参考書			

社会学 I

科目名	社会学 I	講師名	田中 勵子
実施時期	第 1 学年	講義数	15 回
単位数	2 単位	時間数	30 時間
目的・目標 ①現代社会の現状について知り、社会のしくみを学ぶ。②ダイバーシティにおけるコミュニケーションについて考える。			
講義内容 I 社会の現状 1. 授業計画（シラバス）の説明、ガイダンス（受講上の留意点について） 2. 子どもの健康と体力 I 身長伸びと体力低下の現状 3. 子どもの健康と体力 II 社会的背景 4. 遊びからみる社会構造の変化（H・W） 「子ども時代の遊び調査」より 5. 高度経済成長期と現在の社会状況との相違 耐久消費財とインフラ（オリンピック、万博） 6. 少子高齢社会 人口動態から考える 7. 長寿社会と人口減少時代 少子化と高齢化の問題点を知る 8. 少子化の理由（原因）、長寿化の理由 生涯未婚率、合計特殊出生率、共働き世帯 9. 家族の機能と役割 （家族とは、その範囲とは） 10. 家族の機能と領域 ジェンダーの視点から 11. 社会的相互作用 社会的演技 12. アイデンティティと社会化 ディズニーやセサミストリートキャラクター分析 13. 多様性プログラム 違い探しゲーム（ダイバーシティの考え方）（GW）他者と共生するとは 14. 前期授業のまとめ 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考			
教科書・参考書			

社会学Ⅱ

科目名	社会学Ⅱ	講師名	田中 勵子
実施時期	第 1 学年	講義数	15 回
単位数	2 単位	時間数	30 時間
目的・目標 少子高齢化が進む日本における多様な問題に対する理解を深め、現代社会における主体としての人間生活と諸問題について日々の生活を軸とした社会システムの重要性について考える。			
講義内容 1. ガイダンス 日本社会において気になる（解決されるべき）課題 2. 社会保障の考え方と社会福祉 Social welfare と憲法 25 条 3. 社会福祉の歴史：ヨーロッパ編 4. 社会福祉の歴史：日本編 5. 現代の社会福祉政策の問題点 6. 社会保険：自営と雇用 1 (最低生活費で家計 check) H・W 7. 社会保険：自営と雇用 2 国民年金と健康保険 8. サービスと対価 税金と控除 9. 家 計 10. 政治は国民の福祉に寄り添っているか 11. 消費動向と健康財への関心 12. 社会資源（ネーミングとキャッチコピー） H・W 13. レポートについて：調査研究を発表 まとめ 14. テーマを設定し調査研究を行い、レポートを作成する 15. レポート発表会 レポート提出			
評価方法 レポート発表会（発表報告、提出物）			
備考			
教科書・参考書			

生化学

科目名	生化学	講師名	金政 桂子
実施時期	第1学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 人の体内では日々様々な化学的な反応が起こっています。この講義では生化学における基本的な知識を学び、生命活動の基礎となる物質の働きを理解して下さい。			
講義内容 講義内容 1. 科学的ものの見方、考え方 2. 水 3. アミノ酸 4. タンパク質の役割 5. タンパク質の立体構造 6. 酵素 7. 酵素の反応速度論 8. 糖質 9. 脂質 中性脂肪 10. 膜とリポタンパク質 11. ビタミンと補酵素 12. 代謝の流れ 13. 解糖系、TCA サイクル 14. その他の代謝系、まとめ 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考			
教科書・参考書			

保健体育

科目名	保健体育	講師名	中瀬 義弘
実施時期	第1学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 主として運動器を中心に人体に対する理解を深める。			
講義内容(※触察を含む)			
- 解剖学の基本（解剖学的肢位、運動の面、運動の軸） 触察：膝窩のマッピング - 骨について① 骨の形状と分類、構造、用語 触察：骨指標 脛骨、腓骨頭、外果、内側縁、内果 - 骨について② 骨の連結 不動関節について 触察：脛骨内側縁～内果～第1中足骨 - 筋の分類 関節の種類 筋の形態と分類 触察：肩甲骨 下角～内側縁～上角～肩甲棘 - 筋の形状・構造 触察：肩甲骨 肩甲挙筋 - 触察：三角筋、肩甲挙筋、上腕筋、上腕二頭筋 - 神経系の構成と役割 触察：前腕前面 - 筋の作用、骨格筋の構造・収縮、マクロ的な筋の形状 触察：外果、腫骨、第5中足骨、立方骨 - 現代における健康問題について 触察：上腕筋、上腕二頭筋 - エネルギー収支バランスについて（摂取エネルギー・消費エネルギー） 触察：円回内筋、長掌筋 - 脂肪細胞について 触察：総指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋 - 運動処方について 触察：大腿四頭筋 - 骨粗鬆症と運動について① 触察：半膜様筋、大腿二頭筋 - 骨粗鬆症と運動について② 触察：縫工筋、薄筋、半腱様筋 - 試験			
評価方法 終講試験			
備考			
教科書・参考書			

外国語 I

科目名	外国語 I (英語)	講師名	谷口 芳正
実施時期	第 1 学年	講義数	15 回
単位数	1 単位	時間数	30 時間
目的・目標 国際化が進む中、医療現場でも英語によるコミュニケーション能力が必要とされてきています。この講義では医学・医療の基本的な用語の英語表現を知り、現場での英会話の流れについて理解していきましょう。			
講義内容 1. human body face parts 練習問題 2. related vocabulary 3. symptoms and injuries medical department 接頭語 4. common disease 5. 接頭語、代表的な病名 6. 接頭語、診察室、処置室の指示表現 骨格系の短文 7. digestive system の色塗り arthritis の文 8. 骨の仕組み 練習問題 9. 会話集 受付の英語 talk 既往歴 10. what is locomotive syndrome 11. 筋骨格の文章 練習問題 12. hepatitis C 略語集 筋骨格系 13. conversation 14. まとめ 復習 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考			
教科書・参考書 鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブック 著 者：大饗里香/ワイマン・ゴードン 出版社：医道の日本社			

外国語Ⅱ

科目名	外国語Ⅱ（英語）	講師名	谷口 芳正
実施時期	第1学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 国際化が進む中、医療現場でも英語によるコミュニケーション能力が必要とされてきています。この講義では医学・医療の基本的な用語の英語表現を知り、現場での英会話の流れについて理解していきましょう。			
講義内容 1. nervus system 2. nervus ROM conversatin 脳の図 色ぬり 3. 医学表現 神経系 ROM 4. 神経系疾患と questions 5. stroke 6. angina の文 循環疾患 7. 泌尿器疾患 8. アルコールの文Ⅰ 9. アルコールの文Ⅱ 10. endocrine system vocabularies 11. TB プリント 12. respiretony system の疾患 13. レッスン1 1 1 2 1 3 14. piabetes まとめ 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考			
教科書・参考書 鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブック 著 者：大饗里香/ワイマン・ゴードン 出版社：医道の日本社			

解剖学 I

科目名	解剖学 I	講師名	大草 亘孝
実施時期	第 1 学年	講義数	15 回
単位数	1 単位	時間数	30 時間
目的・目標 医学の基礎となる解剖学の基礎知識を理解し、身に付ける。			
講義内容 1. 解剖学総論 2. 四大組織（上皮組織） 3. 支持組織（線維性結合組織、軟骨組織） 4. 骨組織（血液、リンパ） 5. 筋組織、神経組織 6. 筋収縮の機構、細胞周期（細胞分裂） 7. ヌクレオチド、筋収縮、膜輸送（細胞膜） 8. 遺伝子、骨の発生 9. RNA について、皮膚 10. 皮膚構造（表皮、真皮、皮下組織）、感覚（終末装置） 11. 皮膚（爪、毛、皮膚腺） 12. 乳腺、人体の区分、人体の方向・位置 13. まとめ I（組織学） 14. まとめ II（感覚器・皮膚） 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考			
教科書・参考資料 解剖生理学 編 者：（公社）東洋療法学校協会 著 者：内田さえ 鍵谷方子 原田 晃 原田彰宏 発行所：医歯薬出版株式会社			

解剖学Ⅱ

科目名	解剖学Ⅱ	講師名	上村 守
実施時期	第1学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 骨は人体が運動を行う上で柱となる重要な器官である。骨や関節の基本的な役割を知り、骨の構造的特徴について理解を深める。			
講義内容 1. 骨格系総論 2. 脊柱の構成（椎骨・椎間円板・椎間関節・脊柱管・椎間孔） 3. 頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨・脊柱の彎曲 4. 胸郭の構成（胸骨・肋骨・胸郭の運動） 5. 上肢の構成・上肢帯（鎖骨・肩甲骨） 6. 自由上肢骨（上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・中手骨・指骨） 7. 上肢の関節（胸鎖関節・肩鎖関節・肩関節・肘関節・手根間関節・中手指節関節・指節間関節） 8. 下肢の構成・下肢帯：寛骨（腸骨・坐骨・恥骨）・骨盤（仙腸関節） 9. 自由下肢骨（大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨・距骨・踵骨・中足骨・指骨） 10. 下肢の関節（股関節・膝関節・脛腓関節・距腿関節・足根間関節） 11. 下肢の関節（足根中足関節・中足指節関節・指節間関節）・足弓 12. 頭蓋骨の構成（脳頭蓋） 13. 頭蓋骨の構成（顔面頭蓋） 14. 頭蓋骨の構成（上顎骨・下顎骨・舌骨） 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考			
教科書・参考資料 解剖生理学 編 者：（公社）東洋療法学校協会 著 者：内田さえ 鍵谷方子 原田 晃 原田彰宏 発行所：医歯薬出版株式会社			

解剖学Ⅲ

科目名	解剖学Ⅲ	講師名	上村 守
実施時期	第1学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 骨とともに人体の運動に重要な役割を果たす筋肉について、理解を深める。			
講義内容 1. 筋肉系総論（筋の付着・筋の形・筋の作用運動・筋の補助装置） 2. 体幹の筋Ⅰ（胸筋・腹筋） 3. 体幹の筋Ⅱ（背筋・会陰筋） 4. 体幹の運動（前屈・後屈・側屈・呼吸運動） 5. 体幹の局所解剖 6. 上肢の筋（上肢帯の筋・上腕の筋・前腕の筋・手の筋） 7. 上肢の運動（肩関節・肘関節） 8. 上肢の局所解剖（肋鎖間隙・腋窩・肘窩・屈筋支帯と手根管・伸筋支帯） 9. 下肢の筋（下肢帯の筋・大腿の筋・下腿の筋・足の筋） 10. 下肢の運動（股関節・膝関節・足関節・足指の筋） 11. 下肢の局所解剖（筋裂孔・血管裂孔・大腿三角・内転筋管） 12. 頭頸部の筋（頭部の筋・頸部の筋） 13. 頭頸部の体表・局所解剖（前頸三角・後頸三角・胸鎖乳突筋部） 14. まとめ 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考			
教科書・参考資料 解剖生理学 編 者：（公社）東洋療法学校協会 著 者：内田さえ 鍵谷方子 原田 晃 原田彰宏 発行所：医歯薬出版株式会社			

解剖学Ⅳ

科目名	解剖学Ⅳ	講師名	大草 亘孝
実施時期	第 1 学年	講義数	15 回
単位数	1 単位	時間数	30 時間
目的・目標 人体における循環器系と内分泌系の構造と役割をについて理解を深める。			
講義内容 第 5 章 循環器系 1. 血管系総論 2. 心臓 3. 動脈系 大動脈 頭頸部の動脈 胸部・腹部の動脈 4. 動脈系 上肢・下肢の動脈 5. 静脈系 6. 静脈系 胎児循環・リンパ系 7. リンパ節、脾臓、胸腺 8. 扁桃、集合リンパ小節、虫垂 内分泌系総論、下垂体前葉 9. 下垂体、松果体 10. 甲状腺、上皮小体、副腎、睪臓 11. 睪臓、性腺（精巣、卵巣） 12. まとめ（動脈系） 13. まとめ（静脈系・リンパ系） 14. まとめ（内分泌系） 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考資料 解剖生理学 編 者：（公社）東洋療法学校協会 著 者：内田さえ 鍵谷方子 原田 晃 原田彰宏 発行所：医歯薬出版株式会社			

解剖生理学 I

科目名	解剖生理学 I	講師名	杉田 尚子
実施時期	第 1 学年	講義数	15 回
単位数	1 単位	時間数	30 時間
目的・目標 生命活動の特徴を学ぶ。細胞がどのように働き、生きることに役立つかを学ぶ。循環および呼吸では、生きるために循環や呼吸はどのような役割を果たすかを学ぶ。			
講義内容 1. 生理学の基礎① 細胞内小器官 2. 生理学の基礎② 物質移動 3. 循環① 血液総論、浸透圧 4. 循環② 赤血球（ヘモグロビン、血液検査） 5. 循環③ 白血球、血小板、血漿、生体防御 6. 循環④ 血液凝固因子、血液型 7. 循環⑤ 心臓の構造 8. 循環⑥ 刺激伝導系、心周期 9. 循環⑦ 心電図 10. 循環⑧ 血管、血圧 11. 循環⑨ 圧受容器反射、局所循環 12. 呼吸① 肺気量、死腔 13. 呼吸② ガス分圧、$O_2 \cdot CO_2$ の運搬、胸腹式呼吸 14. 呼吸③ 呼吸反射、異常呼吸 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考資料 解剖生理学 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：内田さえ 鍵谷方子 原田 晃 原田彰宏 発行所：医歯薬出版株式会社			

解剖生理学Ⅱ

科目名	解剖生理学Ⅱ	講師名	杉田 尚子
実施時期	第1学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 消化吸収では、なぜ食べなければならないか、食べたものがどのように生命活動に利用されるかを学ぶ。代謝および体温では、食物を食べた結果、どのようなことが起こるかを学ぶ。排泄では、血液をろ過し、物質を選択する機能についての重要性を学ぶ。			
講義内容 1. 消化と吸収① 総論、機械的消化 2. 消化と吸収② 消化管の運動、唾液の性状 3. 消化と吸収③ 胃液～腸液 4. 消化と吸収④ 消化管ホルモン、栄養と吸収 5. 代謝① 糖質の代謝、基礎代謝量 6. 代謝② 脂質、蛋白質 7. 代謝③ ビタミン 8. 代謝④ ミネラル、水 9. 体温 体温調節 10. 体温 体温の産熱と放散 11. 排泄① 腎臓の構造、機能、ネフロン 12. 排泄② 糸球体 ろ過、再吸収 13. 排泄③ 体液調節、クリアランス 14. 排泄④ 尿の性状、排尿反射 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考資料 解剖生理学 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：内田さえ 鍵谷方子 原田 晃 原田彰宏 発行所：医歯薬出版株式会社			

解剖生理学Ⅲ

科目名	解剖生理学Ⅲ	講師名	森 幸代
実施時期	第 1 学年	講義数	15 回
単位数	1 単位	時間数	30 時間
目的・目標 人体における呼吸器系、消化器系、泌尿器系の構造と機能について理解を深める。			
講義内容 第 7 章 呼吸器系 1. 呼吸器系総論 2. 鼻腔・副鼻腔・喉頭・咽頭 3. 気管・気管支・肺 第 8 章 消化器系 4. 消化器系総論 5. 舌・歯 6. 口腔・咽頭・食道 7. 胃・小腸（空腸・回腸） 8. 大腸（盲腸・結腸・直腸） 9. 肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜 第 9 章 泌尿器系 10. 泌尿器系総論 11. 腎臓、尿路 第 11 章 生殖器系 12. 男性生殖器（精巣・精路・外生殖器） 13. 女性生殖器（卵巣・卵管・子宮・膣・外生殖器） 14. 受精と発生 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 解剖生理学 編 者：（公社）東洋療法学校協会 著 者：内田さえ 鍵谷方子 原田 晃 原田彰宏 発行所：医歯薬出版株式会社			

解剖生理学Ⅳ

科目名	解剖生理学Ⅳ	講師名	森 幸代
実施時期	第 1 学年	講義数	15 回
単位数	1 単位	時間数	30 時間
目的・目標 人体における神経系と感覚器系の構造について理解を深める。			
講義内容 1. 第 3 章神経系 総論 2. 第 3 章神経系 中枢神経 延髄・橋 3. 第 3 章神経系 中枢神経 中脳・小脳・間脳 4. 第 3 章神経系 中枢神経 大脳 5. 第 3 章神経系 末梢神経 脳神経Ⅰ～Ⅵ 6. 第 3 章神経系 末梢神経 脳神経Ⅵ～Ⅻ 7. 第 3 章神経系 脳室系・髄膜・脳脊髄液・脳の血管 8. 第 3 章神経系 脳神経 9. 第 3 章神経系 脊髄神経 10. 第 3 章神経系 脊髄神経 11. 第 3 章神経系伝導路 12. 第 4 章神経系視覚器 13. 第 4 章神経系平衡・聴覚器 14. 第 4 章神経系感覚器、神経系まとめ 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 解剖生理学 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：内田さえ 鍵谷方子 原田 晃 原田彰宏 発行所：医歯薬出版株式会社			

解剖生理学Ⅴ

科目名	解剖生理学Ⅴ	講師名	森 幸代
実施時期	第1学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 ホルモン作用と分泌調整を理解する。中枢神経系と末梢神経系の働きを理解する。			
講義内容			
1. 第10章 内分泌 内分泌概論 視床下部 2. 第10章 内分泌 視床下部、下垂体ホルモン 3. 第10章 内分泌 各内分泌腺とそのホルモンの特徴 (甲状腺・副甲状腺・膵臓) 4. 第10章 内分泌 各内分泌腺とそのホルモンの特徴 (副腎髄質、皮質、精巣、卵巣) 5. 第11章 生殖・身体加齢変化 (生殖、男性生殖器) 6. 第11章 生殖・身体加齢変化 (性反射、女性生殖器、妊娠と出産、分娩) 7. 第11章 生殖・身体加齢変化 (成長と老化・身体活動の協調) 8. 第3章 神経 神経系とは ニューロンの構造と働き (グリア細胞、変性、再生、軸索輸送) 9. 第3章 神経 興奮の伝導 (静止電位、活動電位、シナプス伝達、加重、抑制性・興奮性神経) 10. 第3章 神経 興奮の伝達 (発散、収束、促進、閉塞、神経伝達物質、シナプスの可塑性) 11. 第3章 神経 中枢神経系 (脊髄・脳幹・小脳) 12. 第3章 神経 中枢神経系 (視床・視床下部) 13. 第3章 神経 中枢神経系 (大脳) 14. 第3章 神経 中枢神経系 (大脳基底核・脳波・脳脊髄液) 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書			
解剖生理学			
編 者：(公社) 東洋療法学校協会			
著 者：内田さえ 鍵谷方子 原田 晃 原田彰宏			
発行所：医歯薬出版株式会社			

解剖生理学Ⅵ

科目名	解剖生理学Ⅵ	講師名	森 幸代
実施時期	第 1 学年	講義数	15 回
単位数	1 単位	時間数	30 時間
目的・目標 人体における神経系と感覚器系の機能について理解を深める。			
講義内容 1. 第 3 章 神経 末梢神経系（脊髄神経） 2. 第 3 章 神経 末梢神経系（脊脳神経） 3. 第 3 章 自律神経(分類・働き) 4. 第 3 章 自律神経(伝達物質・受容体・中枢) 5. 第 3 章 筋(構造・分類) 6. 第 3 章 筋(興奮収縮連関・エネルギー代謝) 7. 第 3 章 運動(神経支配・受容器) 8. 第 3 章 運動(運動の調節) 9. 第 3 章 運動(反射) 10. 第 4 章 感覚(分類・性質・体性感覚) 11. 第 4 章 感覚(内臓感覚・痛覚) 12. 第 4 章 感覚(視覚) 13. 第 4 章 感覚(平衡感覚) 14. 第 4 章 感覚(味覚・嗅覚・聴覚) 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 解剖生理学 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：内田さえ 鍵谷方子 原田 晃 原田彰宏 発行所：医歯薬出版株式会社			

解剖生理学Ⅶ

科目名	解剖生理学Ⅶ	講師名	杉田 尚子
実施時期	第3学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 解剖学や生理学で学んだ人体の構造と機能について統合された学習を通して、復習を行うとともに、国家試験での統合問題に対処できる実力を養う。			
講義内容 1. 解剖学・生理学の基礎 2. 血液、生体の防御機構 3. 循環 4. 呼吸 5. 消化と吸収 6. 栄養と代謝、体温 7. 排泄 8. 内分泌 9. 生殖・成長と老化 10. 神経その1 11. 神経その2 12. 内臓の自律神経性調節 13. 筋、運動 14. 感覚 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 解剖生理学 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：内田さえ 鍵谷方子 原田 晃 原田彰宏 発行所：医歯薬出版株式会社			

運動学

科目名	運動学	講師名	是石 芳宏
実施時期	第2学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 解剖学や基本的な物理学の知識を基に、人体の運動について専門用語を用いて説明できる。			
講義内容 1. イントロダクション 運動の軸と面 2. 重心と重心線・姿勢 3. 伝導路・反射 4. 反射・ロコモティブシンδροーム・サルコペニア 5. 脊柱の動き・働き 6. 肩甲帯・肩関節の動き、触診 7. 肩関節の筋、五十肩のメカニズム 8. 肘の構造 9. 手関節・手・指の構造 10. 骨盤、股関節の構造 11. 膝関節の構造 12. 足の機能 13. 歩行 その1 14. 歩行 その2 まとめ 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 新版リハビリテーション医学 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 監 修：安保 雅博 発行所：医歯薬出版株式会社			

病理学概論 I

科目名	病理学概論 I	講師名	中辻 貴子
実施時期	第 2 学年	講義数	15 回
単位数	1 単位	時間数	30 時間
目的・目標 病理学の基礎知識を習得する。			
講義内容 1. オリエンテーション 第 1 章「病理学とはどのような学問か」 第 2 章「疾病についての基本的考え方」 2. 第 4 章「循環障害」①充血・うっ血 3. 第 4 章「循環障害」②貧血・虚血 4. 第 4 章「循環障害」③出血・血栓 5. 第 4 章「循環障害」④塞栓・梗塞 6. 第 4 章「循環障害」⑤浮腫・ショック 7. 第 5 章「退行性病変」①萎縮・変性（その 1） 8. 第 5 章「進行性病変」②変性（その 2）・壊死 9. 第 6 章「進行性病変」①肥大・増殖 10. 第 6 章「進行性病変」②再生・化生・肉芽組織・異物処理 11. 第 7 章「炎症」①炎症の概念、炎症の 3 病変 12. 第 7 章「炎症」②炎症の分類（その 1） 13. 第 7 章「炎症」③炎症の分類（その 2） 14. 第 7 章「炎症」④炎症の分類（その 3） 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 病理学概論 編 者：（公社）東洋療法学校協会 著 者：畠山 茂、滝澤 登一郎 発行所：医歯薬出版株式会社			

病理学概論Ⅱ

科目名	病理学概論Ⅱ	講師名	中辻 貴子
実施時期	第2学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 病理学の基礎知識を習得する。			
講義内容 1. 第9章「免疫・アレルギー」①免疫不全、自己免疫異常 2. 第9章「免疫・アレルギー」②アレルギー（その1） 3. 第9章「免疫・アレルギー」③アレルギー（その2） 4. 第9章「免疫・アレルギー」④移植 5. 第8章「腫瘍」①腫瘍の概念、良性・悪性腫瘍 6. 第8章「腫瘍」②癌の種類、癌転移 7. 第8章「腫瘍」③癌の発生原因 8. 第8章「腫瘍」④腫瘍の分類 9. 第10章「先天異常」①代謝異常と奇形（その1） 10. 第10章「先天異常」②奇形（その2） 11. 第3章「病因」①素因 12. 第3章「病因」②内分泌障害 13. 第3章「病因」③物理的外因 14. 第3章「病因」④化学的外因、生物学的外因 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 病理学概論 編 者：（公社）東洋療法学校協会 著 者：畠山 茂、滝澤 登一郎 発行所：医歯薬出版株式会社			

臨床医学総論 I

科目名	臨床医学総論 I	講師名	河合 稔弘
実施時期	第 2 学年	講義数	15 回
単位数	1 単位	時間数	30 時間
目的・目標 臨床医学に必要な診察学の基礎知識と基本的な技法を学びます。国家試験を対象とするのみならず、臨床現場で使える知識と技術を身に付けましょう。			
講義内容 第 1 章診察の概要 1. 診察の意義、診察の一般的心得、関連用語の理解、診察法の種類、診察の順序 第 2 章診察の方法 2. 医療面接 3. 視診、触診、打診、聴診 4. 聴診 聴診器の確認 正常音（心音、呼吸音、腸雑音） 5. 聴診 異常音（副雑音、心雑音、腸雑音、血管雑音） 第 5 章局所の診察 6. 肺・心臓の診察 身体計測、バイタルサインの診察 正常値の確認 第 3 章生命徴候の診察 7. 血圧 聴診法での血圧測定 高血圧・低血圧の分類（本態性、二次性、症候性） 8. 体温、脈拍 9. 呼吸、意識 第 4 章全身の診察 10. 姿勢・体位 11. 体格 肥満 12. 体格 栄養状態 皮膚・粘膜（色・発疹・体毛・発汗・甲状腺） 第 5 章局所の診察 13. リンパ節、口腔・鼻 14. 腹部 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 臨床医学総論 編 者：（公社）東洋療法学校協会 著 者：奈良 信雄 発行所：医歯薬出版株式会社			

臨床医学総論Ⅱ

科目名	臨床医学総論Ⅱ	講師名	河合 稔弘
実施時期	第2学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 臨床医学に必要な診察学の基礎知識と基本的な技法を学びます。国家試験を対象とするのみならず、臨床現場で使える知識と技術を身に付けましょう。			
講義内容 - 第7章運動機能検査 運動麻痺、筋肉の異常 - 不随意運動、協調運動、起立と歩行 - 不随意運動動画、協調運動動画 - 運動失調、起立と歩行 - 運動障害まとめ 障害部位ごとの症候 - 感覚障害 中枢障害 - 感覚障害 末梢障害 - 第8章その他の診察 救急時の診察 - 臨床検査法 尿・便・髄液・血液・血液生化学（ビリルビンまで） - 臨床検査 検検査 - おもな症状の診察法 意識障害 意識混濁・意識変容 認知機能障害 - 失認・失行・記憶障害 - うつ状態・躁状態・幻覚・妄想・不安障害 - 頭痛・顔面痛 - 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 臨床医学総論 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：奈良 信雄 発行所：医歯薬出版株式会社			

臨床医学総論Ⅲ

科目名	臨床医学総論Ⅲ	講師名	河合 稔弘
実施時期	第2学年	講義数	8回
単位数	1単位	時間数	15時間
講義内容			
第5章局所の診察 1. 頭部、顔面、眼、鼻、耳 2. 四肢の変形 第6章神経系の診察 3. 感覚検査・反射検査 4. 反射検査（病的反射・原始反射） 5. 脳神経系の検査① 6. 脳神経系の検査② 7. まとめ 8. 試験			
目的・目標 医療現場で遭遇する主な症状の考え方、見方を養うことを目指します。国家試験を対象とするのみならず、臨床現場で使える知識と技術を身に付けましょう。			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書			
臨床医学総論・臨床医学各論			
編 者：(公社)東洋療法学校協会			
著 者：奈良 信雄			
発行所：医歯薬出版株式会社			

臨床医学各論 I

科目名	臨床医学各論 I	講師名	長谷川 紀代子
実施時期	第 2 学年	講義数	15 回
単位数	1 単位	時間数	30 時間
目的・目標 整形外科領域における代表的な疾患について、現代医学方面からの理解を深め、また、国家試験問題を解く力をつけることを目標にします。			
講義内容			
1. 第 8 章 整形外科疾患 総論、五十肩 2. 第 8 章 整形外科疾患 関節疾患 3. 第 8 章 整形外科疾患 関節疾患、骨疾患 4. 第 8 章 整形外科疾患 骨疾患 5. 第 8 章 整形外科疾患 筋腱疾患 6. 第 8 章 整形外科疾患 形態異常 7. 第 8 章 整形外科疾患 形態異常・脊椎疾患 8. 第 8 章 整形外科疾患 脊椎疾患 9. 第 8 章 整形外科疾患 脊椎疾患 10. 第 8 章 整形外科疾患 脊髄損傷 11. 第 8 章 整形外科疾患 外傷 12. 第 8 章 整形外科疾患 外傷 13. 第 8 章 整形外科疾患 その他の整形外科疾患 14. 第 8 章 整形外科疾患 テスト対策 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書			
臨床医学各論			
編 者：(公社) 東洋療法学校協会			
著 者：奈良 信雄、佐藤 千史、三宅 修二、西元 慶治、山口 武兼、三高 千恵子			
発行所：医歯薬出版株式会社			

臨床医学各論Ⅱ

科目名	臨床医学各論Ⅱ	講師名	長谷川 紀代子
実施時期	第2学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 消化器・呼吸器・循環器の代表的な疾患について学び、現代医学方面からの理解を深め、また、国家試験問題を解く力をつけることを目標にします。			
講義内容			
1. 第2章 消化管疾患① 口腔・食道 2. 第2章 消化管疾患② 食道・胃 3. 第2章 消化管疾患③ 胃・腸 4. 第2章 消化管疾患④ 腸・腹膜 5. 第3章 肝・胆・膵疾患① 肝疾患（ウイルス性肝炎） 6. 第3章 肝・胆・膵疾患② 肝疾患 7. 第3章 肝・胆・膵疾患③ 胆のう疾患 8. 第3章 肝・胆・膵疾患③ 膵疾患 9. 第4章 呼吸器疾患① 解剖 10. 第4章 呼吸器疾患② 感染症 11. 第4章 呼吸器疾患③ 感染症 12. 第4章 呼吸器疾患④ 13. 第4章 呼吸器疾患⑤ 14. 循環器疾患 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書			
臨床医学各論			
編 者：（公社）東洋療法学校協会			
著 者：奈良 信雄、佐藤 千史、三宅 修二、西元 慶治、山口 武兼、三高 千恵子			
発行所：医歯薬出版株式会社			

臨床医学各論Ⅲ

科目名	臨床医学各論Ⅲ	講師名	名倉 正典
実施時期	第2学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 各種疾患の病因や病態などの臨床的基礎知識を学び得ることで、治療を安全かつ有効に行える鍼灸あま指師となることを目指す。			
講義内容 - 第1章 感染症 : A. 感染症総論、 B. 細菌性感染症 - 第1章 感染症 : C. ウイルス性感染症 - 第1章 感染症 : D. 性感染症 - 第5章 腎・尿路疾患 : 腎・尿路総論、 A. 原発性糸球体腎炎 - 第5章 腎・尿路疾患 : B. 腎不全、 C. 感染症、 D. 腫瘍性疾患 - 第5章 腎・尿路疾患 : E. 結石症、 F. 前立腺疾患 - 第6章 内分泌疾患 : 内分泌総論、 A. 下垂体疾患 - 第6章 内分泌疾患 : B. 甲状腺疾患 - 第6章 内分泌疾患 : C. 副腎疾患 - 第7章 代謝・栄養疾患 : 代謝・栄養総論、 A. 糖代謝異常、 B. 脂質代謝異常 - 第7章 代謝・栄養疾患 : C. 尿酸代謝異常、 D. その他の代謝異常症 - 第12章 リウマチ性疾患・膠原病 : 膠原病総論、 A. リウマチ性疾患 - 第12章 リウマチ性疾患・膠原病 : B. 膠原病 - まとめ - 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 臨床医学各論 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：奈良 信雄、佐藤 千史、三宅 修二、西元 慶治、山口 武兼、三高 千恵子 発行所：医歯薬出版株式会社			

臨床医学各論Ⅳ

科目名	臨床医学各論Ⅳ	講師名	名倉 正典
実施時期	第2学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 各種疾患の病因や病態などの臨床的基礎知識を学び得ることで、治療を安全かつ有効に行える鍼灸あま指師となることを目指す。			
講義内容			
1. 第10章 血液・造血器疾患 : 血液総論、 A. 赤血球疾患 2. 第10章 血液・造血器疾患 : B. 白血球疾患、 C. リンパ網内系疾患 3. 第10章 血液・造血器疾患 : D. 出血性素因 4. 第11章 神経疾患 : A. 脳血管疾患① 5. 第11章 神経疾患 : A. 脳血管疾患② 6. 第11章 神経疾患 : B. 感染性疾患、 C. 脳・脊髄腫瘍 7. 第11章 神経疾患 : D. 基底核変性疾患 8. 第11章 神経疾患 : E. その他の変性疾患、 F. 認知症性疾患 9. 第11章 神経疾患 : G. 筋疾患、 H. 運動ニューロン疾患 10. 第11章 神経疾患 : I. 末梢神経性疾患 11. 第11章 神経疾患 : J. 神経痛、 K. 機能性疾患 12. 第13章 その他の領域 : B. 一般外科① 13. 第13章 その他の領域 : B. 一般外科② 14. まとめ 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書			
臨床医学各論			
編 者 : (公社) 東洋療法学校協会			
著 者 : 奈良 信雄、佐藤 千史、三宅 修二、西元 慶治、山口 武兼、三高 千恵子			
発行所 : 医歯薬出版株式会社			

臨床医学各論Ⅴ

科目名	臨床医学各論Ⅴ	講師名	長谷川 紀代子
実施時期	第2学年	講義数	8回
単位数	1単位	時間数	15時間
目的・目標 眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、婦人科など様々な領域における代表的な疾患について、現代医学方面からの理解を深め、また、国家試験問題を解く力をつけることを目標にします。 講義内容 第13章 その他の領域 1. 循環器疾患 2. 循環器疾患 3. 循環器疾患 4. 婦人科疾患 5. 精神科疾患 6. 心療内科 7. その他 まとめ 8. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 臨床医学各論 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：奈良 信雄、佐藤 千史、三宅 修二、西元 慶治、山口 武兼、三高 千恵子 発行所：医歯薬出版株式会社			

衛生学・公衆衛生学 I

科目名	衛生学・公衆衛生学 I	講師名	齊藤 芳枝
実施時期	第 2 学年	講義数	15 回
単位数	1 単位	時間数	30 時間
目的・目標 人間をとりまく環境において、疾病予防、健康増進に至るまで必要な基礎的知識を身につけ、鍼灸あま指師を職業とする者として保健、医療、福祉、社会情勢を把握し、人々を支える考え方を修得する。			
講義内容			
第 1 章 衛生学・公衆衛生学の意義 1. 衛生学・公衆衛生学の歴史 第 2 章 健康 2. 健康とは 3. 健康管理 4. 衛生行政 5. 医療制度と医療保障 第 3 章 ライフスタイルと健康 6. 食品と栄養 7. 食品と疾病 8. 食中毒について 9. 運動と健康 第 4 章 環境と健康 10. 日常生活環境 11. 環境問題 第 5 章 産業保健 12. 労働環境と健康 13. 労働災害とその対策 14. 業務上疾病とその対策 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書			
衛生学・公衆衛生学 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：鈴木 庄亮、高坂 宏一、出嶋 靖志、笹澤 吉明 発行所：医歯薬出版株式会社			

衛生学・公衆衛生学Ⅱ

科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	講師名	齊藤 芳枝
実施時期	第3学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 人間をとりまく環境において、疾病予防、健康増進に至るまで必要な基礎的知識を身につけ、鍼灸あま指師を職業とする者として保健、医療、福祉、社会情勢を把握し、人々を支える考え方を修得する。			
講義内容 第6章 精神保健 1. 精神障害の現状と分類 2. おもな精神科疾患、精神保健福祉法 第7章 母子保健 3. 母体・乳幼児の健康 4. 少子化問題と子育て支援 第8章 学校保健 5. 学校保健の意義とその構造 6. 保健教育、保健管理、学校で予防すべき感染症 第9章 成人・高齢者保健 7. 生活習慣病と対策 8. 高齢者の保健福祉対策 第10章 感染症とその対策 9. 感染症の分類と対策 10. 免疫について 第11章 消毒法 10. 消毒の種類と方法 11. 医療廃棄物の処理 第12章 疫学 12. 疫学の概念と意義 13. 疫学調査研究について 第13章 保健統計 14. おもな保健統計とその意義 15. 主要な保健統計指標 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 衛生学・公衆衛生学 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：鈴木 庄亮、高坂 宏一、出嶋 靖志、笹澤 吉明 発行所：医歯薬出版株式会社			

リハビリテーション医学Ⅰ

科目名	リハビリテーション医学Ⅰ	講師名	水野稔基、河合稔弘
実施時期	第2学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 リハビリテーション医学の基本的な言葉の概念や評価について学習し、各種医学的リハビリテーションの概要を学ぶ。			
講義内容 1. リハビリ概要・治療学内容 2. 運動療法 3. リハビリテーション理念・目的、生活機能分類 4. リハビリテーションの分野・地域リハ 5. 運動麻痺の評価 6. 身体機能評価 7. 歩行動作と活動について 8. 身体計測 9. 高次脳機能評価 10. バイタルサイン 11. ADL 評価 12. 心理、精神評価 13. 治療体操と移動補助具 14. 義肢装具療法と ST 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 新版 リハビリテーション医学 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 監 修：安保雅博 発行所：文光堂			

リハビリテーション医学Ⅱ

科目名	リハビリテーション医学Ⅱ	講師名	河合 稔弘
実施時期	第3学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 各疾患についてのリハビリテーションについて学ぶ。鍼灸師として知っておくべきリハビリの知識を中心として、病院など他の医療機関で行われるリハビリテーションについても知る。			
講義内容 1. 骨関節疾患のリハビリテーション（1）五十肩・腰痛 2. 骨関節疾患のリハビリテーション（2）変形性膝・股関節症 3. 骨関節疾患のリハビリテーション（3）大腿骨頸部骨折 4. 関節リウマチのリハビリテーション 5. 末梢神経障害のリハビリテーション 6. パーキンソン病のリハビリテーション 7. 切断のリハビリテーション（1） 8. 切断のリハビリテーション（2） 9. 脳卒中のリハビリテーション（1） 10. 脳卒中のリハビリテーション（2） 11. 脊髄損傷（四肢・対麻痺）のリハビリテーション（1） 12. 脊髄損傷（四肢・対麻痺）のリハビリテーション（2） 13. 脳性（小児）麻痺のリハビリテーション 14. 慢性閉塞性肺疾患のリハビリテーション 心疾患のリハビリテーション 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 新版 リハビリテーション医学 編 者：（公社）東洋療法学校協会 監 修：安保雅博 発行所：文光堂			

医療概論

科目名	医療概論	講師名	高木 慶子
実施時期	第1学年	講義数	8回
単位数	1単位	時間数	15時間
目的・目標 社会における東西医療の概要を知り、医療人としての社会とのかかわり方を考える。			
講義内容 1. 西洋近代医学 近代医学の方法と課題 2. 東洋医学 東洋医学と西洋医学 東洋医学の課題 3. 医療従事者と医療施設、医療と医療経済 4. 医療保険のしくみ、公的医療負担、介護サービス行政 5. 医療倫理、ヒポクラテスの誓い、臓器移植 6. プロフェッショナリズム、バイオエシックス、QOL と SOL インフォームドコンセント、守秘義務 7. 医療概論まとめ 8. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 医療概論 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 監修者：中川 米造 発行所：医歯薬出版株式会社			

関係法規

科目名	関係法規	講師名	高木 慶子
実施時期	第3学年	講義数	8回
単位数	1単位	時間数	15時間
目的・目標 あはき師を取り巻く法律について知り、あはき師としての在り方を考える。			
講義内容 1. 法制度の沿革 法の意義・目的 2. 免許について（資格要件・施術者の身分の消滅と復活） 3. 免許について（免許申請・再交付・書き換え交付） 4. 業務について（業務範囲・守秘義務など） 5. 業務について（施術所の届出・構造設備・広告など） 6. 罰則について・医業類似行為について 7. あはき師法まとめ 8. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 関係法規 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：前田和彦 発行所：医歯薬出版株式会社 その他、「官報」など			

社会保障制度と職業倫理

科目名	社会保障制度と職業倫理	講師名	高木 慶子
実施時期	第3学年	講義数	8回
単位数	1単位	時間数	15時間
目的・目標 あはき師を取り巻く社会保障制度と施術者として備えておくべき職業倫理を知る。			
講義内容 1. 医療法・医師法、その他の医療従事者に関する法律 2. 薬事法規 3. 衛生関係法規 4. 社会福祉法規 5. 社会保険関係法規 6. 介護保険 個人情報保護法 7. 社会保障制度と職業倫理まとめ 8. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 関係法規 編者：(公社) 東洋療法学校協会、著者：前田和彦、発行所：医歯薬出版株式会社 社会あはき学 編者：(公社) 東洋療法学校協会、発行所：医歯薬出版株式会社 その他、「官報」など			

あん摩マッサージ指圧理論Ⅰ

科目名	あん摩マッサージ指圧理論Ⅰ	講師名	坂本 周平
実施時期	第1学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 あん摩マッサージ指圧の基礎的理論を学び、応用力に向けての能力を学習する。			
講義内容 1. 第1章 あん摩マッサージ指圧の意義 マッサージの意義と沿革 2. 第1章 あん摩マッサージ指圧の意義 あん摩マッサージ指圧の意義と沿革 3. 第1章 あん摩マッサージ指圧の意義 あん摩の基本手技 4. 第1章 あん摩マッサージ指圧の意義 あん摩の基本手技 5. 第1章 あん摩マッサージ指圧の意義 マッサージの基本手技 6. 第1章 あん摩マッサージ指圧の意義 マッサージの基本手技、指圧の基本手技（押圧操作、運動操作） 7. 第1章 あん摩マッサージ指圧の意義のまとめ 第3章 古法あん摩と導引 経絡について 8. 第3章 古法あん摩と導引 その1 9. 第3章 古法あん摩と導引 その2 10. 第3章 古法あん摩と導引 その3 11. 第4章 あま指の応用（乳房マッサージ、結合織マッサージ） 12. 第4章 あま指の応用（スポーツマッサージ、温熱療法） 13. 第4章 あま指の応用（光線療法、電気療法） 14. 第3、4章 復習 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 あん摩マッサージ指圧理論 編 者：（公社）東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 発行所：（株）医道の日本社			

はりきゅう理論Ⅰ

科目名	はりきゅう理論Ⅰ	講師名	森田 恭弘
実施時期	第1学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 はりきゅうについての基礎知識を学び、実技のための準備をする。			
講義内容 1. オリエンテーション - 第1章 概論 2. 第2章 鍼の基礎知識 鍼尖の形状、鍼の材質、古代九鍼 3. 第3章 刺鍼の方式と術式Ⅰ 刺鍼の方式 刺鍼の術式 4. 第3章 刺鍼の方式と術式Ⅱ 刺鍼中の手技 5. 第4章 特殊鍼法 6. 第5章 灸の基礎知識 7. 第6章 灸術の種類 8. 第7章 鍼灸の臨床応用 9. 第7章 リスク管理Ⅰ 鍼灸の過誤と副作用 10. 第7章 リスク管理Ⅱ 鍼の過誤と副作用 気胸、折鍼 11. 第7章 リスク管理Ⅲ 感染症対策 副反応、内出血、皮膚反応、抜鍼困難など 12. 第7章 灸の過誤 13. 第7章 過誤、副反応の復習 14. 第7章 手の洗浄、消毒、器具の滅菌 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 はりきゅう理論 第3版 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 発行所：(株) 医道の日本社			

東洋医学概論 I

科目名	東洋医学概論 I	講師名	中村 裕也
実施時期	第 1 学年	講義数	15 回
単位数	2 単位	時間数	30 時間
目的・目標 鍼灸治療における東洋医学の基礎を学び、四診（望聞問切）や弁証論治の習得につなげる。			
講義内容 1. 東洋医学の治療と特色 2. 陰陽学説 3. 五行学説 4. 五行学説 5. 生理物質（精・気） 6. 生理物質（血） 7. 生理物質（津液） 8. 気・血・津液の相互関係と神 9. 臓象学説 10. 五臓六腑（肝と胆） 11. 五臓六腑（肝と胆） 12. 五臓六腑（心と小腸） 13. 五臓六腑（心と小腸） 14. 東洋医学の基礎から臓象学説の学習確認 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 東洋医学概論 編 者：（公社）東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 発行所：（株）医道の日本社			

東洋医学概論Ⅱ

科目名	東洋医学概論Ⅱ	講師名	中村 裕也
実施時期	第1学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 鍼灸治療における東洋医学の基礎を学び、四診（望聞問切）や弁証論治の習得につなげる。			
講義内容 1. 五臓六腑（脾と胃） 2. 五臓六腑（脾と胃） 3. 五臓六腑（肺と大腸） 4. 五臓六腑（肺と大腸） 5. 五臓六腑（腎と膀胱） 6. 五臓六腑（腎と膀胱） 7. 五臓六腑（三焦）と 五臓の相互関係 8. 五臓の相互関係 9. 病因（外感病因） 10. 病因（外感病因） 11. 病因（内傷病因） 12. 病理産物とその他の要因 13. 内生五邪 14. 臓象学説から病因の学習確認 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 東洋医学概論 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 発行所：(株) 医道の日本社			

経絡経穴概論 I

科目名	経絡経穴概論 I	講師名	石割 譲
実施時期	第 1 学年	講義数	15 回
単位数	2 単位	時間数	30 時間
目的： 生命活動を営むために重要な気血が通るルートが経絡である。体表面に現れた経絡上の反応点が経穴である。経絡・経穴は施術者(あはき師) が主に施術する部位である、この経絡経穴を学ぶことで、より有効な施術ができるようにする。 目標： 経絡経穴の名前と流注、及び部位や経穴等の詳細を知る。			
講義内容 1. 教科概略説明 経絡経穴の基礎：経絡の概要 2. 経穴の概要：骨度法、同身寸法 3. 経穴の取り方に必要な用語：解剖学的肢位、体表指標 4. 要穴の概略 5. 督脈経 経絡の流注 督脈経 6. 任脈経 経絡の流注 任脈経 7. 手の太陰肺経 経絡の流注 手の太陰肺経 8. 手の陽明大腸経 経絡の流注 手の陽明大腸経 9. 足の陽明胃経 経絡の流注 足の陽明胃経① 10. 足の陽明胃経② 11. 足の太陰脾経 経絡の流注 足の太陰脾経① 12. 足の太陰脾経② 13. 手の少陰心経 経絡の流注 手の少陰心経 14. 手の太陽小腸経 経絡の流注 手の太陽小腸経 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 経絡経穴概論 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 日本理療科教員連盟 著 者：教科書検討小委員会 発行所：(株) 医道の日本社			

経絡経穴概論Ⅱ

科目名	経絡経穴概論Ⅱ	講師名	石割 譲
実施時期	第1学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的： 生命活動を営むために重要な気血が通るルートが経絡である。体表面に現れた経絡上の反応点が経穴である。経絡・経穴は施術者(あはき師)が主に施術する部位である、この経絡経穴を学ぶことで、より有効な施術ができるようにする。 目標： 経絡経穴の名前と流注、及び部位や経穴等の詳細を知る。			
講義内容 1. 足の太陽膀胱経 経絡の流注 足の太陽膀胱経① 2. 足の太陽膀胱経② 3. 足の太陽膀胱経③ 4. 足の少陰腎経 経絡の流注 足の少陰腎経 5. 手の厥陰心包経 経絡の流注 手の厥陰心包経 6. 手の少陽三焦経 経絡の流注 手の少陽三焦経① 7. 手の少陽三焦経② 8. 足の少陽胆経 経絡の流注 足の少陽胆経① 9. 足の少陽胆経② 10. 足の少陽胆経③ 11. 足の厥陰肝経 経絡の流注 足の厥陰肝経 12. 奇経八脈 13. 奇穴 奇穴の意義 14. まとめ 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 経絡経穴概論 編 者：(公社)東洋療法学校協会 日本理療科教員連盟 著 者：教科書検討小委員会 発行所：(株)医道の日本社			

あん摩マッサージ指圧理論Ⅱ

科目名	あん摩マッサージ指圧理論Ⅱ	講師名	坂本 周平
実施時期	第3学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 あん摩マッサージ指圧の基礎的理論を踏まえた応用力を生かし、臨床につなげる理論を学習する。			
講義内容			
1. あん摩マッサージ指圧の各組織・器官におよぼす影響1 あま指の生体作用機転の一般、循環系におよぼす作用		問題演習 1	
2. あん摩マッサージ指圧の各組織・器官におよぼす影響2 神経系におよぼす作用		問題演習 2	
3. あん摩マッサージ指圧の各組織・器官におよぼす影響3 皮膚・筋・関節におよぼす作用		問題演習 3	
4. あん摩マッサージ指圧の各組織・器官におよぼす影響4 消化器・呼吸器・全身におよぼす作用		問題演習 4	
5. 運動法の生体におよぼす作用 運動法・他動運動・自動運動・抵抗運動・矯正法の作用		問題演習 5	
6. 運動法の生体におよぼす作用 施術に応用できる体操法 (機能訓練指導員)		問題演習 6	
7. あん摩マッサージ指圧の治療効果 興奮作用、鎮静作用、反射作用、誘導作用、矯正作用		問題演習 7	
8. 東洋医学の健康観、臓腑と経絡、十四経流注、経穴		問題演習 8	
9. 古法あん摩と導引1 古法あん摩		問題演習 9	
10. 古法あん摩と導引2 導引口訣鈔におけるあん摩法		問題演習 10	
11. 古法あん摩と導引3 按腹図解		問題演習 11	
12. 併用する物理療法1 物理療法の一般、電気療法、光線療法		問題演習 12	
13. 併用する物理療法2 温熱療法、水治療法、温泉療法、運動療法、その他		問題演習 13	
14. まとめ			
15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 あん摩マッサージ指圧理論 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 発行所：(株) 医道の日本社			

はりきゅう理論Ⅱ

科目名	はりきゅう理論Ⅱ	講師名	森田 恭弘
実施時期	第3学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 鍼灸の効果についての現代医学的説明について学び、鍼灸施術の効果や応用について現代医学的観点を中心に理解を深める。			
講義内容			
第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識			
1. 自律神経について 交感神経、副交感神経、内臓求心性神経			
2. 痛覚・温度感覚 温覚 冷覚 ポリモーダル受容器 発痛物質 脊髄内伝導路			
3. 触圧覚について 触圧覚受容器 脊髄内伝導路			
4. 深部感覚について 筋紡錘 腱受容器 体性体性反射 自原抑制 拮抗抑制			
5. 鍼灸刺激と反射 内臓体性反射 体性自律反射			
6. 熱傷（炎症）			
7. 体表の反応 トリガーポイント			
第9章 鍼灸治効機序			
8. 鍼鎮痛Ⅰ 鍼麻酔 鍼鎮痛 ストレス鎮痛			
9. 鍼鎮痛Ⅱ 脊髄分節性鎮痛 DNIC			
10. 局所の血流改善 軸索反射 皮膚・筋肉 筋の循環改善（NO）			
11. 心拍数に及ぼす影響 痛みによる筋緊張 振動誘発屈曲			
12. 消化器と鍼 泌尿器系と鍼			
13. リラクセーションと鍼灸 生体防御機構と鍼灸 臨床との接点			
関連学説			
14. サイバネティックス、ホメオスターシス、汎適応症候群（ストレス学説） 過剰刺激症候群（レイリー現象）、圧発汗反射			
15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書			
はりきゅう理論 第3版			
編 者：（公社）東洋療法学校協会			
著 者：教科書検討小委員会 発行所：（株）医道の日本社			

東洋医学概論Ⅲ

科目名	東洋医学概論Ⅲ	講師名	玉村 彰一郎
実施時期	第 2 学年	講義数	15 回
単位数	2 単位	時間数	30 時間
目的・目標 東洋医学における病証について理解を深める。			
講義内容 1. 陰陽論① 2. 陰陽論② 3. 八綱弁証① 4. 八綱弁証② 5. 八綱弁証③ 6. 六淫弁証① 7. 六淫弁証② 8. 気血津液弁証① 9. 気血津液弁証② 10. 気血津液弁証③ 11. 気血津液弁証④ 12. 臓腑弁証① 13. 臓腑弁証② 14. 臓腑弁証③ 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 東洋医学概論 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 発行所：(株) 医道の日本社			

東洋医学概論Ⅳ

科目名	東洋医学概論Ⅳ	講師名	玉村 彰一郎
実施時期	第2学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 東洋医学における診察法と治療法について理解を深める。			
講義内容 1. 経絡病症① 2. 経絡病症② 3. 経絡病症③ 4. 経絡病症④ 5. 経絡病症⑤ 6. 経絡病症⑥ 7. 経絡病症⑦ 8. 経絡病症⑧ 9. 奇経病証① 10. 奇経病証② 11. 六経病証① 12. 六経弁証② 13. 舌診① 14. 舌診② 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 東洋医学概論 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 発行所：(株) 医道の日本社			

経絡経穴学

科目名	経絡経穴学	講師名	西口 陽通
実施時期	第 2 学年	講義数	15 回
単位数	2 単位	時間数	30 時間
目的・目標 様々な経穴について関連した研究または学説について知る。また各経穴の解剖学的な部位について理解を深める。			
講義内容 1. 要穴、井穴の位置、経絡流注図 2. 経絡の働きについて 3. 太極療法、その他 4. 主要経穴・要穴応用・取穴 5. 主要経穴の取穴（子午療法） 6. デルマトームと経穴 7. トリガーポイントと経穴 8. 皮膚電気抵抗と経穴 9. 天人地療法、平田十二反応点 10. 主要経穴と耳つぼ・足底反射区 11. 主要経穴の取穴（主に解剖との関係） 12. 主要経穴の応用例（奇経治療） 13. 主要経穴の応用例 14. 主要経穴の取穴（主に解剖との関係）確認 15. テスト			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 経絡経穴概論 編 者：(公社) 東洋療法学校協会、発行所：(株) 医道の日本社 鍼灸学基礎編 発行所：東洋学術出版社 解剖生理学 編 者：(公社) 東洋療法学校協会、発行所：医歯薬出版株式会社			

東洋医学臨床論 I

科目名	東洋医学臨床論 I	講師名	久保 雅恵
実施時期	第 2 学年	講義数	15 回
単位数	2 単位	時間数	30 時間
目的・目標 ベッドサイドにおける鍼灸師としての病態把握の仕方を理解し、治療法を立案できるようになる。証を立て、東洋医学的に疾患を検証する。			
講義内容 1. 頭痛 2. 顔面痛 3. 顔面麻痺 4. 眼精疲労 5. 鼻閉・鼻汁、発熱 6. 脱毛症 7. 脱毛症、めまい 8. めまい、耳鳴り・難聴 9. 咳嗽 10. 咳嗽、呼吸困難 11. 便秘 12. 下痢 13. 悪心・嘔吐 14. 悪心・嘔吐 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 東洋医学概論 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 発行所：(株) 医道の日本社 新版 東洋医学臨床論 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 発行所：南江堂			

東洋医学臨床論Ⅱ

科目名	東洋医学臨床論Ⅱ	講師名	名倉 正典
実施時期	第2学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 ①鍼灸臨床に出てくる主な症状について病態把握能力を高め、鍼灸医学での対処法を考えられる。②西洋医学的な検証のもと治療穴を検討する。			
講義内容 1. 治療総論 2. 疼 痛 3. 頭 痛 4. 顔面痛 5. 関節痛 6. 頸肩腕痛 7. 上肢痛 8. 肩関節痛 9. 腰下肢痛 10. 腰 痛 11. 下肢痛 12. 膝 痛 13. 胸 痛 14. 腹 痛 15. まとめ・試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 新版 東洋医学臨床論 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 発行所：南江堂 鍼灸診療技術ガイドⅠ・Ⅱ 文光堂			

東洋医学臨床論Ⅲ

科目名	東洋医学臨床論Ⅲ	講師名	久保 雅恵
実施時期	第3学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 ベッドサイドにおける鍼灸師としての病態把握の仕方を理解し、治療法を立案できるようになる。証を立て、東洋医学的に疾患を検証する。			
講義内容 - 便秘・下痢① - 便秘・下痢② - 月経異常（経早） - 月経異常（経遅） - 月経異常（経乱） - 排尿障害① - 排尿障害② - 陽萎 - 頸肩腕痛（痺証） - のぼせ、冷え - 不眠 - 疲労倦怠 - 発疹 - 小児の症状 - 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 東洋医学概論 編 者：（公社）東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 発行所：（株）医道の日本社 新版 東洋医学臨床論 編 者：（公社）東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 発行所：南江堂			

東洋医学臨床論Ⅳ

科目名	東洋医学臨床論Ⅳ	講師名	名倉 正典
実施時期	第3学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 ①鍼灸臨床に出てくる主な症状について病態把握能力を高め、鍼灸医学での対処法を考えられる。②西洋医学的な検証のもと治療穴を検討する。			
講義内容 1. 臓腑と関連する症候 ①眼精疲労 2. 臓腑と関連する症候 ②便秘・下痢 3. 臓腑と関連する症候 ③呼吸困難 4. 臓腑と関連する症候 ④めまい 5. 臓腑と関連する症候 ⑤耳鳴り・難聴 6. 臓腑と関連する症候 ⑥排尿障害・ED 7. その他の症候 ⑦顔面麻痺 8. 女性特有の症候 ⑧概説 9. 女性特有の症候 ⑨月経異常 10. 女性特有の症候 ⑩性器出血 11. 小児特有の症候 ⑪概説 12. 小児特有の症候 ⑫疳の虫、夜尿症 13. 老年特有の症候 ⑬概説 14. 老年特有の症候 ⑭認知症 15. まとめ・試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 新版 東洋医学臨床論 編者：(公社) 東洋療法学校協会 著者：教科書検討小委員会 発行所：南江堂 鍼灸診療技術ガイドⅠ・Ⅱ 文光堂			

病態生理学

科目名	病態生理学	講師名	杉田 尚子
実施時期	第2学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 様々な症状を現代医学的、生理学的異常という視点でとらえ、その原因から症状発現までを医学用語を用いて説明できる。			
講義内容 1) 疲労、倦怠感 2) やせ、肥満 3) 浮腫、口渇 4) ショック・チアノーゼ／めまい 5) 悪心嘔吐、嚥下障害 6) 咳・痰／吐血・下血 7) 喀血、貧血、出血傾向、易疲労感 8) 脈拍、血圧異常 9) 胸痛、呼吸困難 10) 腹痛、腹部異常 11) 下痢・便秘 12) 尿量異常、排尿障害 13) 月経異常、不正性器出血 14) まとめ 15) 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
参考書			

あはき適応

科目名	あはき適応	講師名	是石 芳宏
実施時期	第3学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 疾患別はりきゅうおよびマッサージの臨床における禁忌と適応について、東洋医学臨床論をベースに疾患ごとに講義形式で進める。医療機関、施術所の臨床現場でよく見かける疾患について鑑別する。			
講義内容 1. 消化器・代謝 適応疾患 2. 呼吸・循環器 適応疾患 3. 眼科・耳鼻科 適応疾患 4. 婦人科・泌尿器科 適応疾患 5. 肥満・肝障害 精神科 適応疾患 6. 脱毛・その他 頭痛 7. 顔面痛・顔面麻痺 8. 頸肩腕痛 9. 肩関節 10. 上肢スポーツ障害 11. 腰下肢痛 12. 下肢 股・膝疾患 13. 下肢スポーツ障害 14. ランニング障害 15. 試験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 新版 東洋医学臨床論 編 者：(公社)東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 発行所：南江堂 鍼灸診療技術ガイドⅠ・Ⅱ 文光堂 痛み学習テキスト (公社)東洋療法研修試験財団			

生体観察

科目名 生体観察	講師名 森田 恭弘、名倉 正典、西口 陽通、 齊藤 芳枝、森 幸代、石割 譲、 高木 慶子、河合 稔弘
実施時期 第2学年	講義数 15回
単位数 1単位	時間数 30時間
目的・目標 経穴概論・解剖学で学んだ知識を基に、実際の身体に経穴を取穴していき理解を深める。	
講義内容 方略：身体に印をつけ経穴がある場所を観察する。 概要：各経脈を手・足・体幹・頭部に分けて観察し、経脈の走行、要穴、取穴部位の理解を深める。 講義 1. 前腕部・手部の取穴と刺鍼・施灸 手の陰経 心経・心包経 2. 前腕部・手部の取穴と刺鍼・施灸 手の陽経 小腸経・三焦経 3. 前腕部・手部の取穴と刺鍼・施灸 前腕橈側の経脈①肺経・大腸経 4. 前腕部・手部の取穴と刺鍼・施灸 前腕橈側の経脈②肺経・大腸経 5. 下腿部・足部の取穴と刺鍼・施灸 足の陰経① 肝経・脾経・腎経 6. 下腿部・足部の取穴と刺鍼・施灸 足の陰経② 肝経・脾経・腎経 7. 下腿部・足部の取穴と刺鍼・施灸 足の陽経① 胆経・胃経・膀胱経 8. 下腿部・足部の取穴と刺鍼・施灸 足の陽経② 胆経・胃経・膀胱経 9. 胸腹部の取穴と刺鍼・施灸 胸部 任脈・腎経・胃経・脾経 10. 胸腹部の取穴と刺鍼・施灸 腹部 任脈・腎経・胃経・脾経 11. 背部の取穴と刺鍼・施灸 背部① 督脈・膀胱経・小腸経 12. 背部の取穴と刺鍼・施灸 背部② 督脈・膀胱経・小腸経 13. 頭部・頸部の取穴と刺鍼・施灸 頭部 督脈・膀胱経・胆経・小腸経 14. 頭部・頸部の取穴と刺鍼・施灸 頸部・顔面 任脈・胃経・大腸経・三焦経 15. 口頭試問と経穴の取穴	
評価方法 経脈・要穴・取穴部位に関する口頭試問と経穴取穴により評価する。	
備考 実務経験のある教員等による授業科目	
参考書	

社会あはき学

科目名	社会あはき学	講師名	西口 陽通
実施時期	第3学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 卒業後、少子高齢の社会で活躍できるように、あはき師として医療制度・医療保険制度・介護保険制度等の概要を学び、現代社会でのあはき師の役割及び施術所の経営について考える。			
講義内容 1. 社会あはき学、国家試験について 2. 鍼灸の歴史 社会的ニーズとあはき師の役割、歴史と現況、展望 3. あはき師を取り巻く環境 医療保険・介護保険概要、現代社会における医療制度の現状 4. 医療機関におけるはり師・きゅう師の役割 施術所におけるあはき治療（在宅医療） 5. 現代社会におけるあはき師の役割 高齢化社会におけるあはき師の役割、物理療法について 6. 地域で期待されるあはき師の業務 人知を超えるもの 7. 少子化におけるあはき師の役割 はやる治療院・はやらない治療院の傾向について 8. 高齢者の介護に対するあはき施術 9. 女性のライフスタイルにおけるあはき師の役割 鍼灸院に必要なもの、施術所の理念 10. ストレス社会におけるあはき師 自分を力づけるもの 11. スポーツ傷害とあはき治療 施術所の経営展開 開設に必要な法律知識 12. 経営各論 リスク管理（ハラスメント） 13. 治療室 部屋図面 治療院に必要な備品器械・消耗品 14. 理想の治療院を考える 15. 自分の考える（理想の）鍼灸院 社会あはき学まとめ			
評価方法 提出物、レポート			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 社会あはき学 編者：（公社）東洋療法学校協会 著者：教科書検討小委員会 発行所：医道の日本社			

あん摩マッサージ指圧実技 I

科目名	あん摩マッサージ指圧実技 I	講師名	長谷 陽介、濱口 達人、齊藤 芳枝
実施時期	第 1 学年	講義数	60 回
単位数	4 単位	時間数	120 時間
目的・目標 あん摩マッサージ指圧の基本手技を学び、相手にとって心地よい刺激を生み出せるようになることを目標とする。あん摩マッサージ指圧に関する必要な知識と基礎的な技術を習得し、施術を適切に行う能力とあん摩マッサージ指圧師としての役割や態度を養う。			
講義内容		【指圧実技】	
【あん摩実技】		導入、諸注意、授業概要の説明	
基礎練習 母指圧迫、母指揉捏、手掌軽擦の説明と練習		伏臥位 脊柱検査・掌圧	
座位での肩背部の施術 説明と練習		伏臥位 1 側線・2 側線	
座位での肩背部の施術 主に軽擦、圧迫、揉捏		伏臥位 3 側線	
座位での肩背部の施術 主に曲手、叩打法		伏臥位 肩甲骨内側縁・腸骨縁	
座位での頸部の施術 説明と練習①②		伏臥位 仙骨挟み込み	
座位での上肢の施術 説明と練習①②③		伏臥位 下腿操作（1）	
頭部の施術 説明と練習		伏臥位 下腿操作（2）	
肩背部の施術 復習		伏臥位 掌圧～下腿操作（2）までの復習	
頸部の施術 復習		伏臥位 肩上部操作	
上肢の施術 復習①②		伏臥位 上肢操作	
側臥位での肩背部の施術 説明と練習		伏臥位 下腿操作（3）	
【マッサージ実技】		伏臥位 下腿操作（4）	
マッサージ実技 概論		伏臥位 総復習	
I. 上肢（筋系）のマッサージ		側臥位 上肢操作（1）	
（各部、説明と練習・復習を含む）		側臥位 上肢操作（2）	
A. 指 部		側臥位 頸部操作	
B. 手背部		側臥位 背部運動操作	
C. 手掌部		側臥位 肩部運動操作	
D. 手関節部		側臥位 背部操作	
E. 前腕部		側臥位 臀部・下腿操作	
F. 肘関節部		側臥位 総復習	
G. 上腕部		仰臥位 胸腹部操作	
H. 肩関節部		仰臥位 下腿操作	
実技演習（パウダー、オイル）		仰臥位 運動操作	
時間測定による練習		仰臥位 顔面操作	
患者モデルに対しての施術の組立と治療		仰臥位 総復習	
各手技の確認と評価		坐位 頸部・肩操作	
		坐位 運動操作	
		指圧基本実技総復習	
評価方法 実技試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書			
プリント配布			
あん摩マッサージ指圧実技〈基礎編〉			
編 者：（公社）東洋療法学校協会			
著 者：教科書検討小委員会 出版社：医道の日本社			

あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ

科目名	あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ	講師名	長谷 陽介、齊藤 芳枝
実施時期	第2学年	講義数	60回
単位数	4単位	時間数	120時間
目的・目標 一年生で学んだ基本手技練習の続きと、あん摩実技は相手の状態に合わせた施術が行えるようになる。あん摩マッサージ指圧に関する必要な知識と基礎的な技術を習得し、施術を適切に行う能力とあん摩マッサージ指圧師としての役割や態度を養う。			
講義内容		【あん摩実技】 側臥位での肩背部の施術 説明と練習（１） 肩背部（１）（２） 頸部（１）（２） 上肢（１）（２）（３） 腰臀部・下肢（１）（２）（３） 伏臥位での施術（総仕上） 説明と練習 腹部の施術 説明と練習 肩背部・頸部・腰部の施術 復習 上肢の施術 復習 下肢の施術 復習 肩背部・頸部・腰部の施術 復習 上肢の施術 復習 下肢の施術 復習 伏臥位での施術 復習 肩関節周辺の運動法（１）（２） 施術練習 肘と手関節の運動法 施術練習 股関節・膝関節の運動法 施術練習 足関節周辺の運動法 施術練習 腰仙部の運動法 施術練習 各施術のチェック 施術練習 頸部・上肢・下肢	
評価方法		実技試験	
備考		実務経験のある教員等による授業科目	
教科書・参考書		プリント配布 あん摩マッサージ指圧実技〈基礎編〉 編 者：（公社）東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 出版社：医道の日本社	

あん摩マッサージ指圧実技Ⅲ

科目名	あん摩マッサージ指圧実技Ⅲ		講師名	長谷 陽介、齊藤 芳枝、 佐久間 優、西口 陽通、高木 慶子	
実施時期	第3学年		講義数	60回	
単位数	4単位		時間数	120時間	
目的・目標 相手の症状や病態に合わせて適切なあん摩マッサージ指圧の手技を行うこと。応用的な手技を行うとともに臨床的な手法を体験、実践できるようになること。あん摩マッサージ指圧に関する必要な知識と応用的な技術を習得し、あん摩マッサージ指圧施術を適切に行う能力を養う。					
講義内容					
【あん摩実技】 肩こりの治療 肩甲骨内縁の揉捏 肩こりの治療 上肢の経絡刺激と肩周囲の筋緊張 肩関節の運動法 腰痛の治療 仙腸関節、腰仙関節の動きと筋緊張 下肢の経絡刺激と腰周囲の筋緊張 膝痛の治療 膝関節の動き 運動法 膝周囲の筋緊張と治療 股関節痛(症)の治療 主な症候に対する治療 歯痛の治療 耳鳴りの治療 呼吸器系の治療 カゼ・喘息等 頭痛の治療 眼精疲労の治療 実技演習 パートナーを患者に見立てて、相互に治療をする		【指圧実技】 指圧の基本1年の復習 基本操作法（伏臥位） 掌圧・指圧器背部1側線押圧 掌圧3側線、指圧器2側線内側 腸骨稜～下肢、後面正中～足底 指圧器2側線外側 下肢(後面、内側、外側まで) 指圧器:仙骨、1・2・3側線と臀部(伏臥位)の押圧について 肩背部、肩上部、上肢の押圧 指圧器:下肢、下腿部押圧 指圧器:肩甲骨の内縁と肩上部の押圧 基本操作法(仰臥位) 胸部～足まで 腰部運動法 顔面の押圧 基本操作(座位) 頸、背部、胸部の運動法、肩上部の押圧 応用操作 手首、足首、アキレス腱、踵骨施術 頸部の掌圧(側臥位)と応用 大腰筋、側臥位・仰臥位の押圧 ギックリ腰の治療について 頸長筋下部、上部の押圧 上胸椎、下頸椎の矯正法 頭蓋骨の動かし方、 脊柱全般の運動法、矯正法、 肋骨押圧と運動法		股関節の治療法について 膝関節の治療法について ①指圧の基本(実技と説明) ②ストレッチ(実技と説明) ③筋紡錘と指圧(実技と説明) 【マッサージ実技】 A. 上腕部 B. 肩関節部 C. 頭 部 D. 頸 部 (胸鎖乳突筋部、側頸部、後頸部) E. 胸 部 (大胸筋群) F. 側胸筋部 (前鋸筋群、肋間筋群) G. スポーツマッサージ 乳房マッサージ 臨床在宅マッサージ	
評価方法 実技試験					
備考 実務経験のある教員等による授業科目					
教科書・参考書 プリント配布 あん摩マッサージ指圧実技〈基礎編〉 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 出版社：医道の日本社					

はりきゅう実技Ⅰ

科目名	はりきゅう実技Ⅰ	講師名	林 整作、木村 辰典
実施時期	第1学年	講義数	60回
単位数	4単位	時間数	120時間
目的・目標 ①鍼術の基本的な用語を理解し、各種の手技をスムーズに行うことが出来る。②線香・もぐさを安全に扱うことが出来る。米粒大、半米粒大を捻り分けることが出来る。安定したリズム、刺激量で施灸することが出来る。			
講義内容			
【はり実技】 オリエンテーション、器具説明、 両手挿管、片手挿管、前揉 後揉法、押手、 弾入、切皮、刺入、抜針、角度 シリコンウレタンへの刺鍼実技 片手挿管、押手、切皮、送り込み シリコン3枚 旋撚刺法 片手挿管のスピード1分 経穴の触察 シリコン3枚下に穴あき用紙 穴通し 直刺 シリコン3枚下に穴あき用紙 45度斜刺 横刺 シリコン1枚（7mm以内） 消毒法 17手技 単刺術、雀啄術、間欠術、屋漏術、振せん 術、旋撚術、回旋術 乱鍼術、副刺激術、示指打法、随鍼術、 内調術、細指術、管散術、鍼尖転移法、 刺鍼転向法 自身の下腿前外側、内側、大腿前面に刺鍼 （深度2cm目標） 自身の下腿前外側、内側、大腿前面に刺鍼 （押手から深度確認まで5秒目標） パートナーへの刺鍼		【きゅう実技】 お灸道具の紹介、お灸の歴史 米粒大 捻り方の説明、デモ、各自手の動きをチェック 米粒大… 大きさ練習 米粒大…見極め クリアした者から板上施灸 米粒大…板上 米粒大…板上で6壮／分 米粒大…板上で8壮／分 米粒大…紙上 半米粒大の形チェック 米粒大…紙上 米粒大…3分間 個人測定 1壮＝8秒、1壮＝10秒 米粒大…1壮＝8秒、1壮＝6秒、半米粒大 形 確認 1壮＝10秒 3分間個人練習 米粒大・半米粒大… 1壮＝8秒 3分間 グループ分け 活動方針の決定 3分間 グループ練習 3分間トライアル 皮膚への施灸、8分デモ プレ見極め	
評価方法 実技試験 平常点			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書			
はりきゅう実技 基礎編			
編 者：（公社）東洋療法学校協会			
著 者：教科書検討小委員会			
発行所：医道の日本社			

はりきゅう実技Ⅱ

科目名	はりきゅう実技Ⅱ	講師名	杵名勇典、酒井美登子、石割 譲、樋口理恵
実施時期	第2学年	講義数	60回
単位数	4単位	時間数	120時間
目的・目標 ①人体に対して安全で衛生的な鍼灸施術を人体各部に対して行うことができる。 ②鍼灸臨床に必要な触診力を養う。			
講義内容			
【安全ガイドライン編】 手洗い・手指消毒、刺鍼・抜鍼時の清潔操作、廃棄物の処理、医療事故の防止対策、鍼灸医療事故 折鍼、埋没鍼、抜鍼について 鍼灸カルテの意義と管理 【基礎鍼灸実技】 直刺・斜刺・横刺による刺鍼 腎兪、大腸兪、外関、豊隆、手三里 実験 切皮時の刺入痛の有無を体験 実験 灸温度計によるお灸温度の測定 【臨床鍼灸実技】 視診・触診・舌・脈の確認 腰下肢痛、頭痛、三叉神経痛、月経異常、逆子、咳嗽、喘息、胸痛、腹痛、嘔吐 【特殊鍼法】 小児はりの実際		【基礎鍼実技】 押手・刺手の確認（下腿内側へ切皮・弾入） 切皮の確認（腰殿部・下腿前面・天枢穴） 【身体部位ごとの鍼灸手技】 腰部華佗挟脊穴、手三里、四瀆、腰腿点、足三里、条口～陰陵泉 への刺鍼 大腿部の刺鍼 梁丘、血海 上腕部の刺鍼 手五里、臂臑、肩貞、臑兪 頸部の刺鍼 天柱、風池、頸百勞 腓腹部の刺鍼 合陽、承山、飛揚 つかみ押手の刺鍼 肩井、腋窩、僧帽筋 横刺 頭部、その他 殿部・股関節周囲の刺鍼 梨状筋 肩甲骨周囲の刺鍼 天宗（骨まで） 胸鎖乳突筋、肩甲挙筋、膝窩筋の刺鍼	
【基礎灸実技】 米粒大、半米粒大の灸 【特殊灸法】 隔物灸 紫雲膏灸 【経絡・経穴に応じた施術】 攢竹、陽白、四白、光明、大腸兪、腎兪、失眠穴、胃の六つ灸、三角形灸、小児斜差の灸 中風七穴、脚気八処の灸、ちり気の灸 【症候別治療法】 急性胃炎、神経性胃炎、麦粒腫、結膜炎 眼精疲労、めまい、外・中・内耳炎、メニエール病、ギックリ腰、肩こり		【実技試験 診察法対策】 整形外科的検査および神経学的検査 頸部の検査 主要検査 肩部の検査 主要検査 上肢の検査 主要検査 上肢の神経学的検査 主要検査 腰下肢の検査 主要検査 腰下肢の神経学的検査 主要検査 腰の鑑別検査 主要検査 膝の検査① 主要検査 膝の検査② 主要検査	
評価方法 実技試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書			
鍼灸医療安全ガイドライン 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ 配布プリント			

はりきゅう実技Ⅲ

科目名	はりきゅう実技Ⅲ	講師名	橋本 多聞、名倉 正典、樋口 理恵
実施時期	第3学年	講義数	75回
単位数	5単位	時間数	150時間
目的・目標 東洋医学的診断法や鍼灸臨床で可能な徒手検査法を学び、その結果得られた知見に基づく東洋医学的対処法の実技を行う。			
講義内容			
四診法概論 三里 望診（望神） 関元 曲池、手三里、伏兎、梁丘、陰陵泉 舌診について 聞診 豊隆、中脘、復溜、経渠 問診 腰痛の問診、腓腹筋の圧痛 寒熱を問う 三陰三陽病 太陽病 飲食を問う 二便を問う 痛みの部位 頭痛、胸痛、腹痛、腰痛、痺証 月経について 不眠・嗜眠について 背候診 心兪、神堂 腹診について 経筋について 脈診 六祖脈、28脈、兼脈 脈診テスト 症例		【各病症に対する基本鍼法】 和法の刺入法 副交感神経優位の病症の鍼 清熱収斂法 交感神経優位の病症の鍼 下法 胃熱に対しての処理&大腸兪 潤法 脱水等による処置 血圧上昇による調整法 【症候に対する鍼法】 頭痛の治療法&局所的調整 頸部痛の治療法&局所的調整 腰部の治療法&局所的調整 呼吸器疾患の治療法 循環器障害の治療法 腹部疾患（婦人科除く）の治療法 婦人科疾患の治療法 妊娠中の治療法&産後の治療法 麻痺・パーキンソン病など神経障害の治療法 心身症・不眠など神経症状の治療法 小児鍼&打鍼術	
【臨床的な刺鍼】 坐骨神経刺鍼、陰部神経刺鍼、中髎穴刺鍼 肋間神経刺鍼、頭顔面部 トリガーポイント 【特殊鍼法】 特殊鍼の使い方 灸頭鍼：炭化艾、温灸用艾 低周波鍼通電 オームパルサー、ピコリナ ：下肢（前脛骨筋）、顔面神経 耳介療法、皮内鍼		【東洋医学的な診察】 募穴診、背部兪穴診 【実技試験対策】 はりきゅう実技評価試験対策	
評価方法 実技試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 東洋医学概論 編集：（公社）東洋療法学校協会 発行所：医道の日本社 鍼灸学 基礎編 発行所：東洋学術出版社 鍼灸臨床技術ガイドⅠⅡ：文光堂			

臨床実習前施術実技

科目名 臨床実習前施術実技	講師名 森田 恭弘、河合 稔弘、齊藤 芳枝、森 幸代、 名倉 正典、石割 譲、高木 慶子
実施時期 第2学年	講義数 15回
単位数 1単位	時間数 30時間
目的・目標 ①臨床実習に必要な鍼灸技術・あん摩マッサージ指圧技術を行えるようにする。②臨床実習に必要な医療面接および身体診察を行えるようにする。③衛生面・安全面に考慮した鍼灸・あん摩マッサージ指圧施術を行えるようにする。 講義内容 概要 1. 身体各部位への刺鍼・施灸 身体部位：肩・腰・膝・四肢末端（五行穴・五要穴等）への刺鍼・施灸 2. 消毒方法の確認 クリーンニードルテクニック・手指消毒 3. 刺入深度・方向の確認 4. 医療面接 5. あん摩・マッサージ・指圧技術の確認 6. 臨床実習前試験（バリア試験）OSCE はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧、医療面接 バリア試験の運用について 臨床実習前試験で基準点を満たした者に臨床実習の参加を認める。 基準点に満たなかった者は、補習を実施し、基準を満たすまで臨床実習に参加できない。 この試験での評価点数を当該科目の最終評価とする。	
評価方法 実技試験	
備考 実務経験のある教員等による授業科目	
教科書・参考書 社会あはき学、臨床医学総論、鍼灸医療安全ガイドライン、危険経穴の断面解剖アトラス 鍼灸臨床技術ガイドⅠⅡ	

臨床体験実習

科目名	臨床体験実習	講師名	外部
実施時期	第2学年	講義数	実時間
単位数	1単位	時間数	45時間
目的・目標 一般目標 医療施設、介護施設、スポーツ施設などを訪問し、学内では得ることのできない緊張感や体験を通じて、訪問した施設の構造や役割および他職種の仕事内容を理解し、職業意識を強く持たせる。 到達目標 【態度・習慣】 ・訪問した施設スタッフと良好な関係を築く。 ・医療施設、介護施設、スポーツ施設などでの業務を理解する。 ・医療従事者としてのモラルと使命感を身につける。 【情報収集】 ・医療施設（介護施設やスポーツ施設を含む）役割・機能を理解する。 ・施設を利用している対象者のニーズや身体状況を理解する。			
講義内容 学習方略 オリエンテーション、体験型臨床実習、診療参加型臨床実習 学習資源 規定された服装、臨床実習実施要領 筆記用具、診療に必要な備品 学習内容 〔オリエンテーション〕 2年における体験・見学実習についての概要 実習先でのオリエンテーション 〔主な実習先分野〕 1. 医療施設（病院・診療所） 2. 介護施設（特別養護老人ホーム、老人介護施設、デイケア・デイサービス） 3. スポーツ施設（スポーツジム、トレーニング施設） 〔実習内容〕 主な実習施設へ行き、業務を見学し、可能であれば業務を担当し、施設利用者を知る。			
評価方法	レポート	出席	
備考	実務経験のある教員等による授業科目		
教科書・参考書			

臨床実習

科目名	臨床実習	講師名	西口 陽通、森田 恭弘、河合 稔弘、齊藤 芳枝、森 幸代、名倉 正典、石割 譲、高木 慶子
実施時期	第 3 学年	講義数	実時間
単位数	2 単位	時間数	90 時間
目的・目標			
一般目標			
附属治療室での臨床実践を通し、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに基本的臨床能力を理解し、すべて実践できる。			
到達目標			
【態度・習慣】			
・附属治療室の業務を理解し、施術者としてのモラルと使命感を身につける。			
【情報収集】			
・附属治療室での役割を理解し患者のニーズや身体的状況を把握する。			
【治療へのアプローチ・情報の整理と共有】			
・施術の目的や方法を理解し、安全に施術を行う。			
・診療録を作成し、症例検討を行う。			
講義内容			
学習方略			
オリエンテーション、診療参加型臨床実習			
学習資源			
規定された服装、臨床実習実施要領			
筆記用具、診療に必要な備品			
学習内容			
〔オリエンテーション〕			
臨床実習の概要			
附属治療室の設備・備品の説明			
役割分担・業務内容の確認			
〔学習課題〕			
1. 診療録の記載方法			
・医療面接・身体診察の実施と病態把握・治療方針の立案			
2. 診療技術			
・運動器疾患を中心とした診察方法の実施			
・運動器疾患を中心とした治療方法の実習			
・周辺機器（遠赤外線治療器・低周波通電治療器・SSP など）の使用			
3. 症例報告および検討			
・症例報告書の作成し症例検討会の実施			
評価方法	平常点	出席	
備考	実務経験のある教員等による授業科目		
教科書・参考書			
新版 東洋医学臨床論、臨床医学総論、はりきゅう実技（基礎編）、経絡経穴概論			
鍼灸臨床技術ガイドⅠⅡ、危険経穴解剖アトラスなど			

臨床総合実習

科目名	臨床総合実習	講師名	外部
実施時期	第3学年	講義数	実時間
単位数	1単位	時間数	45時間
目的・目標			
一般目標			
施術所における患者の臨床実践を通し、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに基本的臨床能力を理解し、すべて実践できる。			
到達目標			
【態度・習慣】			
・ 施術所での業務を理解し、施術者としてのモラルと使命感を身につける。			
【情報収集】			
・ 施術所での役割を理解し患者のニーズや身体的状況を理解する。			
【治療へのアプローチ・情報の整理と共有】			
・ 施術の目的や方法を理解し、安全に施術を行う。			
・ 診療録を作成し、症例検討を行う。			
講義内容			
学習方略			
オリエンテーション、診療参加型臨床実習			
学習資源			
規定された服装、臨床実習実施要領			
筆記用具、診療に必要な備品			
学習内容			
〔オリエンテーション〕			
臨地実習の概要			
実習先の説明			
役割分担・業務内容の確認			
〔学習課題〕			
1. 診療録の記載方法			
・ 医療面接・身体診察の実施と病態把握・治療方針の立案			
2. 診療技術			
・ 運動器疾患を中心とした診察方法の実施			
・ 運動器疾患を中心とした治療方法の実習			
・ 周辺機器（遠赤外線治療機・パルス・SSP など）の使用			
3. 症例報告および検討			
・ 症例報告書の作成・症例検討会の実施			
評価方法 レポート 指導者評価 出席			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書			

治療学 I

科目名	治療学 I	講師名	中村 裕也
実施時期	第 2 学年	講義数	15 回
単位数	2 単位	時間数	30 時間
目的・目標 中国と日本における東洋医学史を包括的に学び、経絡に関連した病について理解を深める。			
講義内容 経脈病症の講義の中にも医学史の内容が含まれます。 1. 東洋医学の起源と思想、十二経脈病症の概要（医学史） 2. 十二経脈病症（手の太陰肺経） 3. 十二経脈病症（手の陽明大腸経） 4. 十二経脈病症（足の陽明胃経） 5. 十二経脈病症（足の太陰脾経） 6. 十二経脈病症（手の少陰心経） 7. 十二経脈病症（手の太陽小腸経） 8. 十二経脈病症（足の太陽膀胱経） 9. 十二経脈病症（足の少陰腎経） 10. 十二経脈病症（手の厥陰心包経） 11. 十二経脈病症（手の少陽三焦経） 12. 十二経脈病症（足の少陽胆経） 13. 十二経脈病症（足の厥陰肝経） 14. 中国と日本における東洋医学史（医学史） 15. 試 験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 新版 東洋医学概論 編 者：(公社) 東洋療法学校協会 著 者：教科書検討小委員会 発行所：(株) 医道の日本社			

治療学Ⅱ

科目名	治療学Ⅱ	講師名	杳名 勇典
実施時期	第2学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 東洋医学の基礎知識を基にワークを通して実際の運用に使えるようになりましょう。			
講義内容 1. 鍼灸臨床について 2. 八綱弁証 表裏 3. 八綱弁証 人体における陰陽① 4. 八綱弁証 人体における陰陽② 5. 生理物質 精 6. 生理物質 気 7. 生理物質 気・血 8. 生理物質 血・津液 9. 六経病証 10. 衛気営血弁証 三焦、奇経、治法 11. 治 法 12. 治 法 補 瀉 13. 刺 法 14. 太極療法の紹介 15. 試 験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 東洋医学概論 編 集：(公社) 東洋療法学校協会 発行所：医道の日本社			

治療学Ⅲ

科目名	治療学Ⅲ	講師名	玉村 彰一郎
実施時期	第3学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 古典的鍼灸治療をするための知識、特に病証学を中心に学習する。			
講義内容 1. 陰陽論 2. 陰陽論 3. 八綱弁証 4. 八綱弁証 5. 六淫病証 6. 気血津液病証 7. 気血津液病証 8. 五行論 9. 五行論 10. 臓腑弁証 肝 11. 臓腑弁証 肺 12. 臓腑弁証 心 13. 臓腑弁証 腎 14. 臓腑弁証 腎 15. 試 験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考資料 東洋医学概論（医道の日本社） 鍼灸学基礎編（東洋学術出版社）、脈診（東洋学術出版社）、杉山真伝流（六然社）			

治療学Ⅳ

科目名	治療学Ⅳ	講師名	玉村 彰一郎
実施時期	第3学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 病証学を学習する。臨床に則した診断学、刺鍼法について学習する。			
講義内容 1. 臓腑弁証 脾 2. 臓腑弁証 脾 3. その他の弁証 4. その他の弁証 5. 脈 診 6. 脈 診 7. 脈 診 8. 脈 診 9. 脈 診 10. 脈 診 11. 刺鍼法 杉山真伝流 12. 刺鍼法 杉山真伝流 13. 特殊な刺鍼法 14. 特殊な刺鍼法 15. 試 験			
評価方法 終講試験			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考資料 東洋医学概論（医道の日本社） 鍼灸学基礎編（東洋学術出版社）、脈診（東洋学術出版社）、杉山真伝流（六然社）			

学術研究 I

科目名	学術研究 I	講師名	森田 恭弘
実施時期	第 2 学年	講義数	15 回
単位数	2 単位	時間数	30 時間
目的・目標 科学的な実験手法を学び、実習を通して学術研究の基礎を学ぶ。			
講義内容 オリエンテーション 実験の説明 1 妥当性 バイアスなど 実験の説明 2 介入試験、比較対照試験・クロスオーバー試験など 生理学実習 1 血糖値の比較 生理学実習 2 指床間距離の比較 生理学実習 3 乳酸値の比較 プロトコール（実験計画書）作成の説明 プロトコール 1 「目的」「方法」 プロトコール 2 「目的」「方法」「結果予想」 前実験 1・2 プロトコールの確認 「目的」「方法」「結果予想」 「被検者リクルート」など 統計学的検定の意義			
評価方法 レポート 平常点			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書 「鍼灸臨床の科学」 医歯薬出版 臨床編 I 総論 3 『鍼灸臨床研究の方法と評価』 七堂利幸			

学術研究Ⅱ

科目名	学術研究Ⅱ	講師名	森田 恭弘
実施時期	第3学年	講義数	15回
単位数	2単位	時間数	30時間
目的・目標 科学的な実験手法、説明を学び、学術研究のプレゼンテーション方法を学ぶ。			
講義内容 実験データ取り、結果検討 結果考察 基礎実験・アンケート調査 抄録作成 発表原稿・スライド作成 学内発表会			
評価方法 レポート 実験計画書 抄録 発表スライド作成			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書			

総合演習 I

科目名 総合演習 I	講師名 森田 恭弘、森 幸代、名倉 正典、 高木 慶子、齊藤 芳枝
実施時期 第 1 学年	講義数 20 回
単位数 2 単位	時間数 40 時間
目的・目標 はりきゅうの安全で衛生的な操作を行えるようになる。また、解剖学や生理学で学んだ知識を総合的に学習して理解を深める。 講義内容 【基本実技演習】 1. はり 消毒操作 1 2. はり 消毒操作 2 3. きゅう 消毒操作 3 4. きゅう 消毒操作 4 5. はりきゅう 消毒操作 5 6. はりきゅう 消毒操作 6 7. はり 安全刺鍼 8. きゅう 安全施灸 9. あん摩 筋肉の確認・把握 10. 指圧 基本押圧 11. マッサージ 基本施術 12. 実技確認試験 【履修科目要点解説・問題演習】 1. 解剖学 2. 解剖学 体表解剖 3. 生理学 4. 解剖学体表解剖・生理学 問題演習 5. 試験 【その他】 学術大会 はり・おきゅう講座 もぐさ工場見学 治療所見学実習	
評価方法 終講試験、実技試験、レポートなどでの総合評価	
備考 実務経験のある教員等による授業科目	
教科書・参考書	

総合演習Ⅱ

科目名	総合演習Ⅱ	講師名	齊藤 芳枝、河合 稔弘
実施時期	第2学年	講義数	15回
単位数	1単位	時間数	30時間
目的・目標 特殊療法演習にてアロマセラピーについて理解を深める。また、テーピングや触察実技演習を通じてスポーツトレーナーについて理解を深める。そして、模擬試験による問題演習を通じて、学習した科目の理解を深める。各種実習や学術大会へ参加することにより見聞を広める。			
講義内容 【特殊療法演習1】 1. アロマセラピー（芳香療法）とは ブレンドオイルづくり 2. ハンド&フット マッサージ 3. 精油の化学・使い方・種類 スプレーづくり、性質診断 【特殊療法演習2】 1. スポーツトレーナー概要 2. テーピング実習 3. 触察実習 【その他】 模擬試験（3回） 学術大会 お灸燃焼温度測定 特別講義 など			
評価方法 終講試験、レポートなどでの総合評価			
備考 実務経験のある教員等による授業科目			
教科書・参考書			

総合演習Ⅲ

科目名 総合演習Ⅲ	講師名 藤原 正昭、西口 陽通、森田 恭弘、 河合 稔弘、齊藤 芳枝、森 幸代、名倉 正典、 石割 譲、高木 慶子
実施時期 第3学年	講義数 45回
単位数 3単位	時間数 90時間
目的・目標 ①臨床でみられる疾患について解剖・生理・病理学的に学ぶ。 ②学術大会など様々なイベントを通して見聞を広める。	
講義内容 【臨床神経解剖】 頭部軟部組織、頭蓋骨、髄膜、 中枢神経系の特殊性、灰白質・白質 神経解剖 大脳（前頭葉、側頭葉、頭頂葉、後頭葉、 辺縁系、基底核、錐体外路系、脳梁） 間脳（視床・視床下部） 小脳、脳幹、脊髄 脳神経、脳室 脈管系 脳動脈・静脈洞 パーキンソン病、顔面神経麻痺のリハビリ 頭蓋内圧亢進症状、髄膜刺激症状、脳ヘルニア、 脳血管障害（虚血性） 虚血性脳血管障害 MRI と CT の違い 出血性脳血管障害 感染性疾患、脳腫瘍（グリオーマ） 脳腫瘍（髄膜腫・神経鞘腫・下垂体腺腫、転移性） 脊髄腫瘍 ハンチントン舞蹈病、脳性小児麻痺、 ウィルソン病、脊髄小脳変性症 脊髄空洞症、進行性核上麻痺、認知症、 重症筋無力症、 筋ジストロフィ、ALS、ギランバレー症候群	【臨床解剖生理病理学】 細胞内器官、血液成分、hyperkalemia、ATP 産生 方法（解糖＋TCA サイクル＋電子伝達系） 血液成分、leukemia、ITP、TTP、anemia 心臓の構造と機能、体循環と肺循環、胎児循環、 TOF、VSD、ASD、PDA、RVH MS、MR、QT 延長症候群、徐脈頻脈症候群、弁 膜症 呼吸運動とその調節機構、腹式呼吸と胸式 呼吸 反回神経の走行と反回神経麻痺、CO ₂ の運 搬方法、酸素解離曲線 消化管粘膜の構造、口腔 と食道、下部食道括約筋とアカラシア、胃底腺を 構成する細胞、duodenum と周辺臓器 大唾液腺 とその支配神経、消化管ホルモン、蠕動と分節運 動、ステロイドと gastric ulcer 腎の解剖、ネフ ロンの構造、腎の機能 体温（低体温と高体温）、 熱射病の対処法、褐色脂肪細胞、熱産生と熱放散 甲状腺ホルモン、インスリン、DM の病態、合併 症、症状 甲状腺機能亢進症、2 次性高血圧、CRF とイタイタイ病、水俣病、骨軟化症 脊髄の構 造、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、脳の構造機 能、CVA、dementia 軸索輸送、局所麻酔薬が奏 効しやすい神経、ナトリウム・カリウムポンプ、 dermatome
【その他】 解剖見学実習 学術大会 就職説明会 業界案内 保険請求の説明（大鍼マ師会など） 経穴復習 問題演習	中国針灸実技 はりきゅう実技評価試験 あん摩マッサージ指圧実技評価試験
評価方法 終講試験、レポートなどでの総合評価	
備考 実務経験のある教員等による授業科目	
教科書・参考書	

総合演習Ⅳ

科目名 総合演習Ⅳ	講師名 西口 陽通、森田 恭弘、河合 稔弘、 齊藤 芳枝、森 幸代、名倉 正典、石割 譲 高木 慶子
実施時期 第3学年	講義数 15回
単位数 1単位	時間数 30時間
目的・目標 ①国家試験合格を目標として模擬試験や問題演習を行う。 自ら学習する力を養い、問題解決能力を身に付ける。	
講義内容	
【国家試験対策】 問題演習 2月実施 専門基礎科目の試験対策と復習 専門科目の試験対策と復習 模擬試験（全9回） ①4月 経穴 80問 ②5月 経穴 東概 100問 ③6月 解剖 生理 経穴 東概 100問 ④7月 解剖 生理 経穴 東概 病理 臨総 100問 ⑤9月 解剖 生理 病理 臨総臨各 リハ 経穴 東概 東臨 190問	⑥10月 解剖 生理 病理 臨総臨各 リハ 経穴 東概 東臨 あ理 は理 き理 190問 ⑦11月 東洋療法学校協会 統一模擬試験 190問 ⑧12月 総合演習Ⅳ 終講試験 全科目 190問 ⑨1月 最終模擬試験 全科目 190問
評価方法 学科試験	
備考 実務経験のある教員等による授業科目	
教科書・参考書	